

学習指導資料

「学習評価の事例集」（宮城県版）

高等学校

第2編（各教科）

芸術（音楽）

令和4年1月

宮城県教育委員会

仙台市教育委員会

石巻市教育委員会

<各事例概要一覧と事例>

(P. 2～9)

- 事例1** キーワード 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価  
科目 音楽I  
(内容のまとめり 「A表現」(1)歌唱及び〔共通事項〕(1))  
題材 音楽の表情の変化を味わいながら表現を工夫して歌おう

(P. 10～26)

- 事例2** キーワード 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価,  
ICTの活用  
科目 音楽I  
(内容のまとめり 「A表現」(2)器楽及び〔共通事項〕(1), 「A表現」(3)創作及び〔共通事項〕(1))  
題材 私たちの「さくら」～箏二重奏曲をつくろう～

(P. 27～38)

- 事例3** キーワード 「思考・判断・表現」の評価, 「主体的に学習に取り組む態度」の評価, ICT  
Tの活用  
科目 音楽I  
(内容のまとめり 「B鑑賞」(1)鑑賞及び〔共通事項〕(1))  
題材 『レクイエム』から広がる西洋音楽の魅力を探ろう

(P. 39～46)

- 事例4** キーワード 「思考・判断・表現」の評価  
科目 音楽I  
(内容のまとめり 「A表現」(1)歌唱及び〔共通事項〕(1), 「B鑑賞」(1)鑑賞及び〔共通事項〕(1))  
題材 歌舞伎の魅力味わおう

(P. 47～55)

- 事例5** キーワード 「思考・判断・表現」の評価, ICTの活用  
科目 音楽I  
(内容のまとめり 「A表現」(1)歌唱及び〔共通事項〕(1), 「B鑑賞」(1)鑑賞及び〔共通事項〕(1))  
題材 アジアの声による多様な表現を味わおう

芸術科（音楽） 事例1（音楽Ⅰ）

キーワード 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価

題材名

音楽の表情の変化を味わいながら表現を工夫して歌おう

内容のまとめ

「A表現」(1) 歌唱 及び 「共通事項」(1)

### 1 題材の目標

- (1) 「Caro mio ben」の曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。
- (2) 「Caro mio ben」のリズム、速度、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。
- (3) 「Caro mio ben」の歌詞の内容と曲の表情や味わいに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。

### 2 本題材で扱う学習指導要領の内容

音楽Ⅰ A表現 (1) 歌唱

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり

ウ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア) 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能

〔共通事項〕(1)

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「リズム」、「速度」、「旋律」、「強弱」、「構成」)

### 3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b> 「Caro mio ben」の曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。</p> <p><b>技</b> 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。</p>	<p><b>思</b> 「Caro mio ben」のリズム、速度、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。</p>	<p><b>態</b> 「Caro mio ben」の歌詞、曲の表情や味わいに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

4 指導と評価の計画 (全4時間)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
1	<p>◆ 「Caro mio ben」 の歌詞の内容や心情及び曲の味わいなどに関心をもつ。</p> <p>○ 「Caro mio ben」 の歌詞の内容や曲想などに関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「Caro mio ben」 の歌詞の内容について知り，歌詞を音読する。</li> <li>・ 「Caro mio ben」 のCDを聴いたり歌ったりして，感じ取った雰囲気などをワークシートⅠに書く。</li> <li>・ ワークシートの内容を学級全体で発表し合い，それぞれが感じ取った楽曲のイメージなどを共有する。</li> <li>・ それぞれが感じ取ったイメージの要因となる音楽の様々な要素の働きについて意見交換するとともに，教師の板書や説明を基に，知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。</li> </ul> <p>○ 旋律の特徴を捉えながら，「Caro mio ben」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音高やリズム，音のつながり方やフレーズを意識しながら，「Caro mio ben」を歌う。</li> </ul>			
2	<p>◆ 「Caro mio ben」 の楽曲の構成を知り，曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解する。</p> <p>○ 「Caro mio ben」 の音楽的特徴を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽曲の構成について知り，各部分の印象の違いや音楽的特徴について，気付いたことを自由に話し合う。</li> <li>・ 前時の学習を生かしながら，各部分について知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，気付いたことや分かったことについてワークシートⅡに書く。</li> <li>・ 書いたことを基にしてグループ内で発表し合い，他者の意見で新たに気付いたことや分かったことをワークシートⅡに追記する。</li> </ul> <p>○ 「Caro mio ben」 の曲想と音楽の構造との関わりを意識しながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシートⅡにまとめた各部分の音楽的特徴を基に，どのように歌うかについてグループで意見交換をする。</li> <li>・ 意見交換をした内容を基にグループで歌い試しながら，「Caro mio ben」 にふさわしい音楽表現を工夫する。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">知 評価の場面Ⅰ （観察） （ワークシートⅡ）</p>		

3	<p>◆ 「Caro mio ben」の曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて考えたことを基に、歌唱表現を創意工夫する。</p> <p>○ 「Caro mio ben」の各部分について、歌唱表現を創意工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループの中でA～Cのどの部分を担当するか決め、A、B、Cごとに新たなグループをつくる。</li> <li>※A：冒頭～13小節、B：15～22小節、C：22小節～最後</li> <li>それぞれのグループで、前時までに学習したことを基に、速度、フレージング、強弱などを試行錯誤して、「Caro mio ben」にふさわしい音楽表現を追求する。</li> <li>音楽的根拠を明らかにしながら、表したい表現についてワークシートⅢに書き込む。</li> <li>元のグループに戻り、A～Cのグループで考えたことを発表し合い、様々な音楽表現をグループで試しながら、より豊かな音楽表現を追求する。</li> </ul>		<p>思 （観察） （ワークシートⅢ）</p>	<p>評価の場面Ⅱ</p>
4	<p>◆ 創意工夫を生かした歌唱表現に必要な技能を身に付ける。</p> <p>○ 創意工夫を生かした表現をするための歌い方をグループで追求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで創意工夫したことを表現できるように、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などを試す。</li> <li>タブレットPCを活用し、録音・録画したグループの歌唱を聴きながら、表したい表現ができているか確認する。</li> <li>歌い試す過程で、知覚・感受の関わりについて新たに気付いたことや、表現したい思いやイメージがより具体的になったことは、前時に書いたワークシートに加筆する。</li> <li>表したい表現意図と発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能との関係を意識しながら、グループで歌う。</li> </ul> <p>○ 題材の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習内容を振り返り、「Caro mio ben」を学級全体で歌う。</li> <li>本題材で学んだことや、様々な音楽表現のアプローチなどについてワークシートⅣに書く。</li> </ul>	<p>技 （演奏（歌唱））</p>	<p>熊 （観察） （ワークシートⅣ）</p>	<p>評価の場面Ⅲ</p>

## 5 観点別学習状況の評価例

### （1）評価の場面Ⅰにおける〈知識〉の評価例

#### ○主な学習活動

- ・楽曲を大きく3つに分け、各部分の音楽的特徴を捉える。
- ・前時の学習を生かしながら、各部分について知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、気付いたことや分かったことについてワークシートⅡに書く。
- ・書いたことを基にしてグループ内で発表し合い、他者の意見で新たに気付いたことや感じたことを〈ワークシートⅡ〉に追記する。

#### ○評価規準

「Caro mio ben」の曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。

○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント  
 〈ワークシート〉

「Caro mio ben」の曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに触れながら、気付いたことや分かったことについて、おおむね妥当な内容を書いているかを判断する。

〈観察〉

ワークシートに記述する場面における生徒の活動の様子、発言やつぶやきなどを観察し、ワークシートの記述からは判断することが難しい側面を補完できるようにする。

下記例の生徒は、他者の意見も参考にしながら、「Caro mio ben」の曲想と気付いた特徴について、おおむね妥当な内容を記述していることから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。

【ワークシートⅡの記入例】

各部分を比較して、それぞれの感じ取った雰囲気やイメージと、音楽の要素の働きや歌詞との関わりについて、分かったことや気付いたことを書こう。		
A	B	C
歌い出しが、下行形が2回続いている。同じ歌詞が繰り返されている。・・・切ない思いを表現しているような感じがする。	歌い出しが、上行形が2回続いている。Aと雰囲気が変わっている。・・・何かを訴えているようだ。	Aと同じ歌い出しだけど、強弱がpppになっていて、恋人に対する思いがいっそう迫ってくるような感じがする。

○「十分満足できる」状況（A）の例

下記例の生徒は、前時に学習したことを踏まえて、「Caro mio ben」の曲想と気付いた特徴について具体的に記述していることから、「十分満足できる状況」（A）と判断することができる。

【ワークシートⅡの記入例】

各部分を比較して、それぞれの感じ取った雰囲気やイメージと、音楽の要素の働きや歌詞との関わりについて、分かったことや気付いたことを書こう。		
A	B	C
順次進行の下行形が繰り返されることによって、相手への思いの強さを感じられる。2回目のフレーズの終わりは跳躍進行があり、特に「te(あなた)」が強調されて表現されているように感じる。	上行形の連続とクレシェンドの後にfの最高音があり、相手への思いがあふれ出るようだ。最後の「tanto rigor」は、アクセントやその前からの跳躍を伴うことによって、歌詞の内容が一層伝わってくる。	Aの冒頭の旋律がpppで再現されることによって、あきらめきれない気持ちを表しているように感じる。フェルマータの「te(あなた)」は、Aと同様に、大切な歌詞として強調されており、相手への思いがこの部分に集約されているようだ。

○「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

生徒の状況に合わせて、特に知覚に関わることについては、前時に学習した音楽の要素の働きについて確認させる。また、他者の意見や、知覚・感受の関わりについて整理した前時の板書の内容を取り入れるようにして、生徒が自分の言葉でワークシートに書くことができるように促す。

## (2) 評価の場面Ⅱにおける〈思考・判断・表現〉の評価例

### ○主な学習活動

- ・ A～Cのグループで、前時までに学習したことを基に、速度、フレージング、強弱などを試行錯誤して、「Caro mio ben」にふさわしい音楽表現を追求する。
- ・ 音楽的根拠を明らかにしながら、表したい表現について〈ワークシートⅢ〉や楽譜に書き込む。

### ○評価規準

「Caro mio ben」のリズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。

### ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

#### 〈ワークシート〉

音楽の要素の働きと曲想や歌詞を関連付けながら、表したい音楽表現について、自分の考えを書いているかを判断する。

#### 〈観察〉

音楽の要素の働きを意識して音楽表現を工夫する場面、知覚と感受の関わりについての理解を深め、そのことを生かした音楽表現の工夫についての発言やつぶやきなどを観察し、ワークシートの記述からは判断することが難しい側面を補完できるようにする。

下記例の生徒は、音楽の構造に触れながら、どのように歌いたいかについて、おおむね妥当な内容を記述していることから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。

#### 【ワークシートⅢの記入例】

音楽的根拠に触れながら、表したい音楽表現について書こう。
(C)
何度も繰り返される「Caro mio ben」のフレーズの中で最後に出てくるフレーズは、装飾音符が付いているため、あまり重々しくならないように軽めに歌いたい。フェルマータの後のデクレシェンドはか細くならないようにし、歌い終わりは余韻が残るように丁寧に歌いたい。

### ○「十分満足できる」状況（A）の例

下記例の生徒は、音楽的根拠を明確にしなが、表したい表現を具体的に記述していることから、「十分満足できる状況」（A）と判断することができる。

#### 【ワークシートⅢの記入例】

音楽的根拠に触れながら、表したい音楽表現について書こう。
(C)
ppp で冒頭の旋律が再現される部分は、より恋人に対する思いが募るように感じるので、単に音量を小さくするのではなく、切々と訴えるような ppp で歌いたい。「te(あなた)」は、フェルマータがあることによって、思いがあふれるように感じるので、遠くにいる恋人に届けるような f で歌いたい。そのために、その前のフレーズはタメを感じてフェルマータに入りたい。最後のフレーズは、今までの旋律の倍の長さになっているので、たっぷり歌い終わりたい。

### ○「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

担当する部分の中で、音楽的根拠を捉えやすい特徴的な箇所を例とし、音楽の要素の働きを基にどのように歌いたいかを考えさせる。また、速度や強弱などを変えた表現をいくつか範唱で示し、音楽の要素の働きを生かした様々な音楽表現の可能性に気付かせる。

### (3) 評価の場面Ⅲにおける〈技能〉の評価例

#### ○主な学習活動

- ・表したい表現意図と発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能との関係を意識しながら、グループで歌う。

#### ○評価規準

創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。

#### ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

##### 〈演奏（歌唱）〉

創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能について学習した内容が、歌唱表現に表れているかを判断する。

#### ○「十分満足できる」状況（A）と判断するキーワード

学習した技能がしっかり身に付いた豊かな歌唱表現

#### ○「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

様々なブレスの取り方で生徒とともに歌い試したり、範唱によって発声や言葉の発音について例を示したりして、表現したい思いやイメージと技能との関わりを意識させられるようにする。

### (4) 評価の場面Ⅳにおける〈主体的に学習に取り組む態度〉の評価例

#### ○主な学習活動

- ・(第1時から第4時までの学習活動)
- ・第4時において、本題材で学んだことや、様々な音楽表現のアプローチなどについて〈ワークシートⅣ〉に書く。

#### ○評価規準

「Caro mio ben」の歌詞、曲の表情や味わいに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

#### ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

##### 〈ワークシート〉

学習全体を振り返って、授業で学んだことや多様な音楽表現などについて、自分の言葉で書いているかを判断する。

##### 〈観察〉

「Caro mio ben」の歌詞、曲の表情や味わいに関心を持ち、自分が知覚・感受したことや他者の意見、教師の説明などを基に、どのように歌うかについて考えたり、歌い試したりしようとしている様子を見取る。

下記例の生徒は、授業で学んだことや音楽表現などについて、おおむね妥当な内容を記述していることから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。

#### 【ワークシートⅣの記入例】

今回の授業で学んだこと、頑張ったことについて書こう。また、他の楽曲でも生かせると思った音楽表現について書こう。

旋律の色々な動きが、多様な音楽の表情や味わいをつくることが分かった。フェルマータの音をたっぷりと表現できるように、息の支えやのどの使い方を工夫して取り組んだ。他の曲でも、旋律の動きに着目して、繊細な表現ができるように取り組みたい。

#### ○「十分満足できる」状況（A）の例

下記例の生徒は、授業で学んだことや音楽表現などについて、具体的に記述していることから、「十分満足できる状況」（A）と判断することができる。

#### 【ワークシートⅣの記入例】

今回の授業で学んだこと、頑張ったことについて書こう。また、他の楽曲でも生かせると思った音楽表現について書こう。

歌詞の内容と旋律の動きや強弱などが密接に関わっていることが分かった。また、速度指示の記号がなくても、様々なテンポを工夫することで、音楽の印象が全く異なることが分かった。私は、Bの部分で最高音に向かうまでに、少しテンポをあおり気味にして、切ない思いが迫ってくるイメージを表現しようと頑張った。これから学習する曲も、テンポの変化や、歌詞の内容と旋律の動きなどの関係に着目して取り組みたい。

#### ○「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

第1時から第4時までを通して、知覚・感受したことを言葉で表すことに難しさを感じている生徒に対しては、他者の意見や板書を参考にさせたり、ピアノで旋律を弾いて聴かせたりして、自分の言葉で書けるように促す。歌唱表現を創意工夫する活動に難しさを感じている生徒に対しては、範唱を聴かせて様々な例を示したり、生徒が自分で書いたワークシートの内容に着目させ、知覚・感受したことと関わらせて表現できるようにしたりし、見通しをもって取り組めるようにする。

ワークシートの振り返りを書く際に、適正な自己評価ができていない生徒に対しては、本題材での学習での生徒のよさを伝えたり、これまで書いたワークシートの内容を振り返らせたりし、自分の言葉で書けるよう促す。

ワークシート

音楽の表情の変化を味わいながら表現を工夫して歌おう

1年 組 番 氏名

I 「Caro mio ben」の第一印象は？

--	--	--

II 各部分を比較して、それぞれの感じ取った雰囲気やイメージと、音楽の要素の動きや歌詞との関わりについて、分かったことや気付いたことを書こう。

A	B	C
〈他者の意見〉	〈他者の意見〉	〈他者の意見〉

III 音楽的根拠に触れながら、表したい音楽表現について書こう。

A	B	C

IV 今回の授業で学んだこと、頑張ったことについて書こう。また、他の楽曲でも生かせると思った音楽表現について書こう。

--

## ■事例②（音楽Ⅰ）

芸術科（音楽） 事例（音楽Ⅰ）②

キーワード 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価、ICTの活用

### 題材名

私たちの「さくら」  
～箏二重奏曲をつくろう～

### 内容のまとめ

「A表現」(2)器楽 及び 「共通事項」(1)／  
「A表現」(3)創作 及び 「共通事項」(1)

## 1 題材の目標

- (1) 曲想と箏の音色や奏法との関わり、音を連ねたり重ねたりしたときの響きの特徴について、表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な箏の演奏技能や、音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、編曲をする技能を身に付ける。
- (2) 箏の音色や旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくり、演奏するかについて表現意図をもつ。
- (3) 箏の音色や奏法の特徴に関心をもち、主体的・協働的に器楽や創作の学習活動に取り組むとともに、感性を高め、音楽を愛好する心情を養う。

## 2 本題材で扱う学習指導要領の内容

### 音楽Ⅰ A表現 (2)器楽

- ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。
- イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
  - (イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり
- ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
  - (ア) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能
  - (イ) 他者との調和を意識して演奏する技能

### 音楽Ⅰ A表現 (3)創作

- ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫すること。
- イ 音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること。
- ウ 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
  - (ウ) 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲をする技能

### 〔共通事項〕(1)

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形作っている要素：「音色」「旋律」)

### 3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知①</b> 曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解している。(器楽)</p> <p><b>知②</b> 音を連ねたり重ねたりしたときの響きの特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。(創作)</p> <p><b>技①</b> 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、編曲をする技能を身に付け、創作で表している。(創作)</p> <p><b>技②</b> 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、器楽で表している。(器楽)</p>	<p><b>思①</b> 音色や旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。(創作)</p> <p><b>思②</b> 音色や旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。(器楽)</p>	<p><b>態</b> 箏の音色や奏法の特徴に関心をもち、主体的・協働的に器楽や創作の学習活動に取り組もうとしている。(器楽・創作)</p>

### 4 指導と評価の計画 (全5時間)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知	技	思	態
1	<p>◆箏に関する基礎的な知識や奏法を身に付け、関心を高める。</p> <p>○楽器の構造、柱の立て方、調弦の仕方を知る。 ・平調子に調弦する。</p> <p>○箏の基礎的な奏法を身に付け、「さくらさくら」を演奏する。 ・楽譜の読み方、爪の付け方、座る位置や両手を置く位置を知り、箏らしい音が出る弾き方を身に付ける。 ・「さくらさくら」を演奏する。</p>				
2	<p>◆曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する。</p> <p>○「《さくら》変奏曲」を聴き、音楽の特徴を捉える。 ・「《さくら》変奏曲」を聴き、音楽の雰囲気や表情について感じたことを〈ワークシートⅠ-①〉に記入する。</p> <p>○「《さくら》変奏曲」を演奏し、曲想と箏の音色や奏法との関わりを理解する。 ・曲中で用いられる奏法を動画で確認し、実際に弾いてみる。 ・「さくらさくら」の旋律と弾き比べ、奏法の違いにより音色の特質や雰囲気がどのように変化しているかを感じ取る。 ・音色の特質や雰囲気が、曲想とどのように関わっているかについてグループで意見交換する。 ・曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて〈ワークシートⅠ-②〉にまとめる。</p>	<p>評価の場面Ⅰ</p> <p><b>知①</b></p> <p>ワークシートⅡ(観察)</p>			

3	<p>◆音楽を形づくっている要素の働きを変えることにより生み出される音楽の表情や雰囲気の変化を捉え、創作へのイメージをもつ。</p> <p>○様々な奏法を用いて「さくらさくら」の旋律を変奏し、音楽の雰囲気や表情の変化を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT端末を用いてインターネット上の教材動画を参照し、箏の様々な奏法について知る。</li> <li>・様々な奏法を用いて「さくらさくら」の旋律を変奏し、試した奏法と、それにより生み出された音楽の雰囲気や表情を〈ワークシートⅡ-①〉に記録する。</li> </ul> <p>○「さくらさくら」の旋律に副次的な旋律や和音を重ね、音楽の雰囲気や表情の変化を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例に従って音を重ね、それにより生み出された音楽の雰囲気や表情を〈ワークシートⅡ-②〉に記録する。</li> </ul> <p>○創作へのイメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでつくりたい音楽のイメージを話し合い、〈ワークシートⅢ-①〉に記入する。</li> <li>・表現したいイメージにふさわしい音楽をつくるために、どのような奏法や音の重ね方を取り入れたらよいかを考え、〈ワークシートⅢ-②〉に記入する。</li> </ul>			
4	<p>◆創意工夫を生かして編曲をする技能を身に付ける。</p> <p>○イメージをもって「さくらさくら」を二重奏曲に編曲する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を想起し、イメージをもって編曲をする。</li> <li>・各自でつくった音楽をグループで共有し、つなげたり、組み合わせたり、修正を加えたりして1つの作品にまとめていく。</li> <li>・つくりながら表現意図が深まったり、新たな表現意図をもったりした場合には、〈ワークシートⅢ〉の内容を赤ペンで加筆・修正する。</li> <li>・つくった音楽を〈ワークシートⅣ〉に記譜する。</li> </ul>	<p>評価の場面Ⅲ</p> <p>知② 技①</p> <p>〈ワークシートⅣ〉 (創作) (作品) (観察)</p>	<p>評価の場面Ⅳ</p> <p>思①</p> <p>〈ワークシートⅢ〉 (創作) (観察)</p>	

5	<p>◆思いや意図をもち、曲にふさわしい演奏表現を追求する。</p> <p>○グループでつくった二重奏曲の演奏表現を創意工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>つくった曲を演奏しながら、表現の工夫について考える。</li> <li>イメージを音として具現化するために、どのように演奏を工夫するかについて話し合い、思いや意図を〈ワークシートV〉に記入する。</li> <li>ICT端末に演奏を録画し、自分たちの思いや意図が演奏表現に結びついているか確認する。</li> <li>交代で練習し、互いに助言し合う。</li> </ul>		<p>評価の場面Ⅱ</p> <p>思②</p> <p>（器楽）</p> <p>〈ワークシートV〉</p> <p>〈観察〉</p>	
6	<p>◆創意工夫を生かした表現で、自分たちがつくった二重奏曲を演奏発表する。</p> <p>○グループ毎に、自分たちがつくった二重奏曲を演奏発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相互鑑賞により表現の意図に応じた工夫と表現の多様性を感じ取り、そのよさを伝え合う。</li> </ul> <p>○本題材の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の学習を振り返り、自己の成長や変容、これからの学習や生活に生かしたいことなどを〈学習の記録〉に記入する。</li> </ul>	<p>技②</p> <p>（器楽）</p> <p>〈観察〉（教師用チェックリスト）</p> <p>（演奏発表）</p>	<p>評価の場面Ⅳ</p>	<p>評価の場面Ⅲ</p> <p>態</p> <p>（器楽・創作）</p> <p>〈観察〉</p> <p>〈学習の記録〉</p>

## 5 観点別学習状況の評価の進め方

### (1) 評価の場面Ⅰにおける〈知識〉①（器楽）の評価例

#### ○主な学習活動

- ・「《さくら》変奏曲」を聴き、音楽の特徴を捉える。
- ・「《さくら》変奏曲」を演奏し、曲想と箏の音色や奏法との関わりを理解する。

## ○評価規準

曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解している。

## ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

### 〈ワークシート I〉

曲想と箏の音色や奏法との関連付けについて、おおむね妥当な内容を書いているかを判断する。

### 〈観察〉

奏法の違いによって生み出される音色の特質や雰囲気が、曲想とどのように関わっているかについてグループで意見交換したり、ワークシートにまとめたりする場面における生徒の活動の様子、発言やつぶやきなどを観察し、ワークシートの記述からは判断することが難しい側面を補完できるようにする。

下記例の生徒は、曲想と箏の音色や奏法との関わりについて、本題材で学習したことを踏まえながら分かったことや気付いたことを書いている。

以上のことから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。

### 【ワークシート I の記述例】

I-① 「《さくら》変奏曲」を聴き、音楽の雰囲気や表情について感じたことを記入しよう。

「さくらさくら」はシンプルで単調だが、「《さくら》変奏曲」は変化があって楽しい。明るく華やかな感じがする。

I-② 箏の音色や奏法と、音楽の雰囲気や表情との関わりについて考えたことをまとめよう。

様々な奏法を用いているので、音色に変化が生まれている。合わせ爪で音を重ねたり、高い音を使ったりしているので、明るく華やかな印象になっている。

## ○「十分満足できる」状況（A）の例

下記例の生徒は、曲想と箏の音色や奏法との関わりについて、本題材で学習したことを踏まえながら分かったことや気付いたことを詳細に書いており、奏法の違いによる音色や旋律の変化、そのことにより生み出される音楽の雰囲気や表情の変化を的確に捉えていることが見取れる。

以上のことから、「十分満足できる」状況（A）と判断することができる。

### 【ワークシート I の記述例】

I-① 「《さくら》変奏曲」を聴き、音楽の雰囲気や表情について感じたことを記入しよう。

「さくらさくら」は一人さびしく桜を眺めているような印象であるのに対し、「《さくら》変奏曲」は桜並木の下を多くの人が行きかっているような、華やかでにぎやかな情景を思わせる。

I-② 箏の音色や奏法と、音楽の雰囲気や表情との関わりについて考えたことをまとめよう。

掻き爪で「ジャラン、ジャラン」と和音が奏され、冒頭から華やいだ雰囲気が醸し出される。合わせ爪で音が重なると、旋律の輪郭がはっきりとして力強い印象になる。一方、左手のピツィカートは柔らかく軽く、はらはらと花卉が舞い散るような風情を感じる。10小節目からは中指を用いた8分音符のリズムで、ややせわしくなく、にぎやかな雰囲気になる。

以上のように、箏の音色は奏法によって変わり、それに伴い音楽の雰囲気や表情も様々に変化することが分かった。

### ○「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

曲想と箏の音色や奏法とを関連付けることができずに活動が停滞している場合には、「さくらさくら」との比較で音楽の表情の違いを捉えるよう促すとともに、奏法の一つに焦点を当て、音色や旋律がどのように変化しているかに意識を向けられるようにする。感じ取ったり聴き取ったりしたことを言葉で記述することに困難を感じている生徒には、曲想や音楽を形づくっている要素の働きの変化を表す言葉について具体的に例示するなどし、記述を促す。

### （2）**評価の場面Ⅱ**における〈思考・判断・表現〉（創作）の評価例

#### ○主な学習活動

- ・創作へのイメージをもつ。
- ・イメージをもって「さくらさくら」を二重奏曲に編曲する。

#### ○評価規準

音色や旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。

#### ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

##### 〈ワークシートⅢ〉

音色や旋律について知覚したことと感受したこととを関わらせながら整理した上で、表したいイメージと関わらせて音楽を形づくっている要素の働きをどのように変化させたかについて、おおむね妥当な内容を書いているかを判断する。

##### 〈観察〉

さまざまな奏法や音の重ね方を試しながら編曲をする場面や、各自でつくった音楽をグループで共有し、話し合いながら一つの作品にまとめていく場面における生徒の活動の様子、発言やつぶやきなどを観察し、ワークシートの記述からは判断することが難しい側面を補完できるようにする。

下記例の生徒は、表したいイメージをもち、そのイメージを音楽で表すために編曲をする上で工夫したいことを、奏法や音の重ね方による響きの変化に着目して書いている。

以上のことから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。

#### 【ワークシートⅢの記述例】

##### Ⅲ-① つくりたい音楽のイメージをグループで共有しよう。

私たちは 春の明るく穏やかな雰囲気 を音楽で表現したい。
------------------------------------

##### Ⅲ-② 表現したいイメージにふさわしい音楽をつくるためのアイデアをまとめよう。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・旋律に長めの音を重ねて、ゆったりとした感じを出す。</li><li>・左手ピツィカートのような音色を用いて穏やかさを表現する。</li><li>・「さくらー」の伸ばす部分にトレモロを使い、明るさを表現する。</li></ul> |
|--|

### ○「十分満足できる」状況（A）の例

下記例の生徒は、表したいイメージをもち、そのイメージを音楽で表すために編曲をする上で工夫したいことを、複数の視点から具体的に記述している。

以上のことから、「十分満足できる」状況（A）と判断することができる。

#### 【ワークシートⅢの記述例】

Ⅲ-① つくりたい音楽のイメージをグループで共有しよう。

私たちは

お花見のような明るく華やいだ雰囲気

を音楽で表現したい。

Ⅲ-② 表現したいイメージにふさわしい音楽をつくるためのアイデアをまとめよう。

- ・華やかな幕開けをイメージした前奏を付け加える。  
→下行形の旋律で桜の花が舞い散る様子を表現する。トレモロと掻き爪で派手さを出す。
- ・旋律に8分音符で音を重ね、人々が賑やかに行き交う様子を表現する。
- ・輪連を用いて春の風を表現する。
- ・引き色で音を揺らし、和の風情を表現する。

### ○「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

表したいイメージはもっているが、それを具体的な表現意図へと結び付けることができず、活動が停滞している場合には、第2時で学習した「《さくら》変奏曲」を参考に、音楽を形づくっている要素の働きの変化によって、音楽の雰囲気や表情が変わることを再確認させる。さらに第3時での学習を振り返らせ、「さくらさくら」の冒頭2小節の旋律について奏法や音の重ね方を変えることで、イメージがどのように変化したかを問うなどしながら、イメージと表現意図とを関連付けられるよう促す。表現意図をワークシートに記述する段階で停滞している場合には、作品の中で工夫がみられる箇所を指摘して、なぜそのようにつくったのかを問うなどし、教師やグループの生徒との対話の中で考えを整理させ、記述を促す。

(3) **評価の場面Ⅲ**における〈知識・技能〉（「知識②」（創作）及び「技能①」（創作））の評価例

#### ○主な学習活動

- ・様々な奏法を用いて「さくらさくら」の旋律を変奏し、音楽の雰囲気や表情の変化を味わう。
- ・「さくらさくら」の旋律に副次的な旋律や和音を重ね、音楽の雰囲気や表情の変化を味わう。
- ・イメージをもって「さくらさくら」を二重奏曲に編曲する。

#### ○評価規準

- ・音を連ねたり重ねたりしたときの響きの特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。(知識)
- ・創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、編曲をする技能を身に付け、創作で表している。(技能)

### ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

#### 〈ワークシートⅣ（作品）〉

音を連ねたり重ねたりしたときの響きの特徴に関する知識や、音楽を形づくっている要素の働きを変化させて編曲をする技能について学習した内容が作品に表れているかを判断する。

〈観察〉

さまざまな奏法や音の重ね方を試しながら編曲をする場面や、各自でつくった音楽をグループで共有し、話し合いながら一つの作品にまとめていく場面における生徒の活動の様子、発言やつぶやきなどを観察し、作品からは判断することが難しい側面を補完できるようにする。

下記例の生徒は、音を連ねたり重ねたりしたときの響きの特徴について表したいイメージと関わらせて理解し、〈ワークシートⅢ〉に記述した内容を踏まえて音楽を形づくっている要素の働きを適切に変化させ、編曲をしている様子を作品から見取ることができる。

以上のことから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。

【ワークシートⅣの記述例】

Ⅳ 「さくらさくら」を編曲して箏二重奏曲をつくろう。

(箏Ⅰ)	七	七	八	-	七	七	八	-	七	八	九	八
(箏Ⅱ)	五	-	六	-	五	-	六	-	五	-	六	-
(箏Ⅰ)	七	<u>八七</u>	六	-	五	四	五	六	五	<u>五四</u>	三	-
(箏Ⅱ)	五	-	○ <u>八</u>	<u>七</u> 六	四	-	二	-	四	-	○ <u>+</u>	<u>九</u> 八
(箏Ⅰ)	七	八	九	八	七	<u>八七</u>	六	-	五	四	五	六
(箏Ⅱ)	五	-	六	-	五	-	○ <u>八</u>	<u>七</u> 六	四	-	二	-
(箏Ⅰ)	五	<u>五四</u>	三	-	七	七	八	~~~~	七	七	八	~~~~
(箏Ⅱ)	四	-	○ <u>+</u>	<u>九</u> 八	五	-	六	-	五	-	六	-
(箏Ⅰ)	オ九	斗	中為	斗	十	-	-	○				
(箏Ⅱ)	○八	<u>七五</u>	六	七	八	-	-	○				

※ 〈ワークシートⅢ〉の記入内容

①	春の明るく穏やかな雰囲気
②	・旋律に長めの音を重ねて、ゆったりとした感じを出す。 ・左手ピツィカートのような音色を用いて穏やかさを表現する。 ・「さくらー」の伸ばす部分にトレモロを使い、明るさを表現する。

○ 「十分満足できる」状況（A）の例

下記例の生徒は、音を連ねたり重ねたりしたときの響きの特徴について表したいイメージと関わらせて理解し、〈ワークシートⅢ〉に記述した内容を踏まえつつ、それ以外にも様々に音楽を形づくっている要素を変化させながら編曲をしている様子を作品から見取ることができる。

以上のことから、「十分満足できる」状況（A）と判断することができる。

【ワークシートⅣの記述例】

Ⅳ 「さくらさくら」を編曲して箏二重奏曲をつくろう。

(箏Ⅰ)	○十 九八 九八 七六	○ ○ ○ ○	七 七 八 -
(箏Ⅱ)	十 ~~~~~	三) 三) 三) 三)	五 五 六 -
(箏Ⅰ)	七 七 八 -	七 八 九 八	七 八七 六 -
(箏Ⅱ)	五 五 六 -	○五 五五 ○五 五五	○六 六六 ○中 為斗
(箏Ⅰ)	五 四 五 六	五 五四 三 -	七] 八] 九] 八]
(箏Ⅱ)	○四 四四 ○四 四四	○四 四四 ○四 五六	○十 十十 ○十 十十
(箏Ⅰ)	七 八七 六 -	十] 九] 十] 斗]	十 十九 八 -
(箏Ⅱ)	○斗 斗斗 ○中 為斗	○五 五五 ○五 五五	○五 五五 ○四 五六
(箏Ⅰ)	七 六七 八 -	七 十九 八 -	十 斗 中為 斗
(箏Ⅱ)	五 四五 六 ワ	五 四五 六 ワ	五 六 八七 六
(箏Ⅰ)	十 - - ○		
(箏Ⅱ)	五 - - ○		

※ 〈ワークシートⅢ〉の記入内容

①	お花見のような明るく華やいた雰囲気
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・華やかな幕開けをイメージした前奏を付け加える。 →下行形の旋律で桜の花が舞い散る様子を表現する。トレモロと掻き爪で派手さを出す。</li> <li>・旋律に8分音符で音を重ね、人々が賑やかに行き交う様子を表現する。</li> <li>・輪連を用いて春の風を表現する。</li> <li>・引き色で音を揺らし、和の風情を表現する。</li> </ul>

○「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

表したいイメージはもっているが、それを編曲によって表現するためにはどうしたらよいか見通しがもてずに活動が停滞している場合には、第2時で学習した「《さくら》変奏曲」や第3時で学習した奏法や音の重ね方の例を参考に、「さくらさくら」の冒頭2小節の旋律について、奏法を変化させたり、音を加えたりさせる。その上で、イメージがどのように変化したかを問うなどしながら、音を連ねたり重ねたりしたときの響きの特徴について、表したいイメージと関わらせた理解を促すとともに、どのように音楽を形づくっている要素の働きを変化させるかについて見通しをもたせる。

(4) 評価の場面Ⅳにおける〈思考・判断・表現〉②（器楽）の評価例

○主な学習活動

- ・グループでつくった二重奏曲の演奏表現を創意工夫する。

○評価規準

音色や旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。

## ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント 〈ワークシートV〉

作品のよさを表現するために、どのように演奏したいかについて自分なりの思いや意図を書いているかを判断する。

### 〈観察〉

どのように演奏したいかについてグループで話し合う場面や、演奏を聴き合い助言し合う場面における生徒の活動の様子、発言やつぶやきなどを観察し、ワークシートの記述からは判断することが難しい側面を補完できるようにする。

下記例の生徒は、作品のイメージや音楽的な特徴に触れながら、どのように演奏したいかについて、自分なりの思いや意図を書いている。

以上のことから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。

### 【ワークシートVの記述例】

V イメージを音として具現化するために、演奏するときに工夫したいことを書こう。

明るく華やいだ雰囲気表現した曲なので、全体に大きめの音で演奏したい。箏Ⅰは主旋律なので、箏Ⅱより小さくならないように気を付ける。また、旋律の流れに合わせて抑揚を表現する。輪連や引き色の所がポイントなので、音色の変化を強調するよう意識して演奏したい。

## ○「十分満足できる」状況（A）の例

下記例の生徒は、作品のイメージや音楽的な特徴などに触れながら、どのように演奏したいかについて、自分なりの思いや意図とその理由を明確に書いている。また、どのように演奏すれば作品のよさを表現できるかについて具体的に発言したり、様々な音楽表現を試しながらよりよい演奏を追求したりする様子が観察された。

以上のことから、「十分満足できる」状況（A）と判断することができる。

### 【ワークシートVの記述例】

V イメージを音として具現化するために、演奏するときに工夫したいことを書こう。

冒頭はフォルテで演奏し、華やかな幕開けを表現したい。箏Ⅰの下行形の旋律は、桜が舞い散る様子をイメージしてなめらかに。互いのパートに耳を傾け、テンポやリズム、音量バランスをしっかりと合わせる。全体に箏Ⅱは主旋律を邪魔しないように演奏するが、合いの手の部分が流れをつくると思うので、その部分はやや強調する。つむじ風のイメージで取り入れた輪連は鋭く鳴らす。引き色の所は音色の変化を味わいながら伸ばし、最後の一音をしっかりと合わせることで、華やかさの後の静寂を表現したい。

## ○「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

表したいイメージはもっているが、それを具体的な表現意図へと結び付けることができず、活動が停滞している場合には、創作の段階でどのような音楽をつくりたいと考えたのかを想起させ、そこから演奏の工夫点を見出すよう促す。また、演奏する際に気を付けていることを問いかけたり、グループでの意見交換の場面において他の生徒が発言したことを参考にして考えさせたりし、教師や生徒同士の対話を通して思いや意図がもてるよう促す。

### (5) 評価の場面Ⅴにおける〈技能〉②(器楽)の評価例

#### ○主な学習活動

- ・ 箏の基礎的な奏法を身に付け、「さくらさくら」を演奏する。
- ・ グループ毎に、自分たちがつくった二重奏曲を演奏発表する。

#### ○評価規準

創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、器楽で表している。

#### ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況(B)と判断するポイント

##### 〈観察(教師用チェックリスト)(演奏発表)〉

「姿勢」については爪の付け方、座る位置や向き、両手を置く位置を身に付けているか、「弾き方」については爪のあて方や手の使い方など、箏らしい音が出る弾き方を身に付けているか、「表現」については創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方、他者との調和を意識して演奏する技能について学習した内容が演奏表現に表れているかを確認し、〈教師用チェックリスト〉に記録する。よくできている場合には「○」、おおむねできている場合には空欄、改善を要する場合には「×」とする。「姿勢」「弾き方」については、第1時より機会をとらえて状況確認し、必要に応じ個別指導につなげる。「表現」については、第6時の演奏発表の場面で確認する。

下記例の生徒A・Bは「姿勢」「弾き方」「表現」のすべてまたは一部が空欄となっており、「×」は記されていないので、「おおむね満足できる」状況(B)と判断できる。

#### 【教師用チェックリストの記入例】

	姿勢	弾き方	表現	備考
生徒A				
生徒B	○			
生徒C	○	○	○	
生徒D		×		親指の使い方×

##### ※チェックの仕方

- ・ よくできている…○
- ・ おおむねできている…空欄
- ・ 改善を要する…×, ポイントを備考欄に記入

#### ○「十分満足できる」状況(A)の例

上記例の生徒Cは、「姿勢」「弾き方」「表現」のすべてに○が記してあるので、「十分に満足できる」状況(A)と判断できる。

#### ○「努力を要する」状況(C)と判断されそうな生徒への働きかけの例

姿勢や弾き方の違いによって演奏したときの音や響きが異なることを生徒自身が実感できるよう、目の前で範を示すとともに、個別に身体の使い方を指導する。自らの身体の使い方の問題点を的確にとらえられないために活動が停滞している場合には、ICT端末を用いて演奏の様子を撮影し、範奏と比較することで、改善を要するポイントを客観的に捉えられるようにする。他者との調和を図ることができないために活動が停滞している場合には、楽譜を用いて他のパートとの音のつながりや重なりを視覚的に捉えさせるとともに、他者の演奏をよく聴きながら演奏するよう促す。

(6) **評価の場面VI**における〈主体的に学習に取り組む態度〉(器楽・創作)の評価例

○主な学習活動

第1時	・楽器の構造、柱の立て方、調弦の仕方を知る。 ・基礎的な奏法を身に付け、「さくらさくら」を演奏する。
第2時	・「《さくら》変奏曲」を聴き、音楽の特徴を捉える。 ・「《さくら》変奏曲」を演奏し、曲想と箏の音色や奏法との関わりを理解する。
第3時	・様々な奏法を用いて「さくらさくら」の旋律を変奏し、音楽の雰囲気や表情の変化を味わう。 ・「さくらさくら」の旋律に副次的な旋律や和音を重ね、音楽の雰囲気や表情の変化を味わう。 ・創作へのイメージをもつ。
第4時	・イメージをもって「さくらさくら」を二重奏曲に編曲する。
第5時	・グループでつくった二重奏曲の演奏表現を創意工夫する。
第6時	・グループ毎に、自分たちがつくった二重奏曲を演奏発表する。 ・本題材の学習を振り返る。

○評価規準

箏の音色や奏法の特徴に関心を持ち、主体的・協働的に器楽や創作の学習活動に取り組もうとしている。

○評価方法及び「おおむね満足できる」状況(B)と判断するポイント

〈観察〉

各時の学習活動において、主に以下のような場面での生徒の活動の様子、発言やつぶやきなどを観察し、粘り強く取り組んでいるかや自らの学習を調整しているかを判断する。

●第1時

「さくらさくら」を演奏する場面で、箏らしい音色を意識しながら繰り返し練習しているか。

●第2時

「《さくら》変奏曲」の曲想と箏の音色や奏法との関わりを捉える場面で、他者と意見交換しながら理解を深めようとしているか。

●第3時

グループでつくりたい音楽のイメージを話し合う場面で、自分の意見と他者の意見の共通点を探り、創作の方向性を見出そうとしているか。

●第4時

「さくらさくら」を二重奏曲に編曲する場面で、実際に音を出して様々に試したり、意見交換したりしながら、イメージに合った音楽をつくろうとしているか。

●第5時

演奏表現を創意工夫する場面で、つくった曲にふさわしい器楽表現にするため、イメージと関わらせながら意見を述べたり、繰り返し練習し、助言し合ったりしているか。

●第6時

演奏発表の場面で、自分の演奏を振り返ったり、他のグループの演奏を聴いて感想を伝えたりしているか。

〈学習の記録〉

〈学習の記録〉の記述内容から、生徒が知識及び技能を得たり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて、粘り強く取り組んでいるか、自らの学習を調整しながら学習を進めよう

としているかについて評価し、観察では見取ることができなかった生徒の取組の状況を補完的に扱いながら、第6時に総括的に評価する。

なお、自己評価に関する記述内容がそのまま学習評価に結び付くものではなく、生徒が自らの学習状況を適正に捉えることができているかどうかが大切であるということについて、生徒と共通理解を図っておく。

下記例の生徒は、音楽を形づくっている要素の働きを変化させたり、表したいイメージを記述したりすることができず、活動が停滞する様子が観察された。しかしながら、全6時間を通して〈学習の記録〉に自己評価を記入しており、自分の学習状況を分析し、できていることと難しさを感じていることを整理して次時の学習に臨んでいることがうかがえる記述が見られる。それらを踏まえ、「さくらさくら」を二重奏曲に編曲する場面や演奏表現を創意工夫する場面では、他の生徒の意見やアドバイスを積極的に取り入れながら活動する様子が観察された。

以上のことから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。

### 【学習の記録の記述例】

	月/日	ねらい	自己評価
1	○/○	箏に関する基礎的な知識や奏法を身に付け、関心を高める。	S - (A) - B - C - D
		(努力したこと、進歩したこと、次に頑張りたいこと 等) 中学校以来、久しぶりに箏を弾いて楽しかった。調弦は難しかったが、ペアの人と協力してできたので良かった。	
2	○/○	曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する。	S - (A) - B - C - D
		(努力したこと、進歩したこと、次に頑張りたいこと 等) 様々な奏法を用いることで音楽の雰囲気が変わることがわかったが、楽器の音色や奏法との関わりを言葉にするのは難しかった。	
3	○/○	音楽を形づくっている要素の働きを変えることにより生み出される音楽の表情や雰囲気の変化を捉え、創作へのイメージをもつ。	S - A - (B) - C - D
		(努力したこと、進歩したこと、次に頑張りたいこと 等) 動画を見ながら練習し、奏法は結構覚えたが、変奏のアイデアがわかなかった。また、音楽の雰囲気やイメージを言葉にするのが難しく、あまり書けなかった。	
4	○/○	創意工夫を生かして編曲をする技能を身に付ける。	S - A - (B) - C - D
		(努力したこと、進歩したこと、次に頑張りたいこと 等) グループの人に教えてもらいながら何とかつくれた。イメージを音で表現する難しさを感じた。	
5	○/○	思いや意図をもち、曲にふさわしい演奏表現を追求する。	S - (A) - B - C - D
		(努力したこと、進歩したこと、次に頑張りたいこと 等) 抑揚の付け方や箏ⅠとⅡの音量のバランスに気を付けて練習した。グループの人と助言し合って高められたと思う。	
6	○/○	創意工夫を生かした表現で、自分たちがつくった二重奏曲を演奏発表する。	S - A - (B) - C - D
		(努力したこと、進歩したこと、次に頑張りたいこと 等) 本番は緊張したが、間違わずに弾けて良かった。同じ「さくらさくら」をもとにしてはいるのに、グループによって全く違う曲になっていて面白かった。	

■ 題材全体を振り返り、自己の成長や変容、これからの学習や生活に生かしたいことなどを書こう。

箏の様々な奏法を身に付け、二重奏ができるまでに上達できた。また、音楽の雰囲気と、楽器の音色や奏法との関わりを理解することができた。イメージを言葉にしたり音で表現したりするのは難しかった。今回はグループの人に助けってもらって何とかできたが、次の機会には自分からアイデアを出せるように頑張りたい。

○「十分満足できる」状況（A）の例

下記例の生徒は、全6時間を通して〈学習記録〉に自己評価をしており、頑張ったことについて具体的な手立てに言及したり、難しいと感じたことなどについてその要因を考えながら記述したりして、自らの学習状況を把握するとともに、自己の学習を調整しながら取り組んでいることがうかがえる。第3時の学習では、音楽を形づくっている要素の働きを個々に変化させるだけでなく、同時に変化させることによって曲想がどのように変化するかを試すなど、発展的な課題をもちながら学習している様子が観察された。また、編曲をする場面や演奏表現を創意工夫する場面では、グループの他の生徒と積極的に意見を交わしながら、よりよい表現にしようとして粘り強く取り組む姿が見られた。

以上のことから、「十分満足できる」状況（A）と判断することができる。

【学習の記録の記述例】

	月/日	ねらい	自己評価
1	○/○	箏に関する基礎的な知識や奏法を身に付け、関心を高める。	S - (A) - B - C - D
		(努力したこと、進歩したこと、次に頑張りたいこと 等) 箏の音色が好きなので、これからの活動が楽しみ。美しい音で演奏したいので、姿勢や爪のあて方など忘れないようにする。	
2	○/○	曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する。	S - (A) - B - C - D
		(努力したこと、進歩したこと、次に頑張りたいこと 等) 曲想と音色や奏法とを関連付けるのが難しかった。「さくらさくら」と何度も弾き比べたことで関わりが明確になり、自分の言葉でまとめることができた。	
3	○/○	音楽を形づくっている要素の働きを変えることにより生み出される音楽の表情や雰囲気の変化を捉え、創作へのイメージをもつ。	S - (A) - B - C - D
		(努力したこと、進歩したこと、次に頑張りたいこと 等) 動画教材を繰り返し見て、様々な奏法を覚えることができた。奏法や音の重ね方によって音楽の表情が様々に変化するのが面白かった。創作のイメージがふくらんだ。	
4	○/○	創意工夫を生かして編曲をする技能を身に付ける。	S - A - (B) - C - D
		(努力したこと、進歩したこと、次に頑張りたいこと 等) 「《さくら》変奏曲」のイメージに引っ張られてしまい、自分なりの音楽をつくるのが難しかった。音を出しながら色々と試し、友人からの助言も受け、何とか形にできた。	
5	○/○	思いや意図をもち、曲にふさわしい演奏表現を追求する。	(S) - A - B - C - D
		(努力したこと、進歩したこと、次に頑張りたいこと 等) グループで表したいイメージを何度も確認し合いながら、表現を工夫した。動画を撮って客観的に見ると課題が明確になった。練習を重ね、理想に近づけることができた。	

6	○/○	創意工夫を生かした表現で、自分たちがつくった二重奏曲を演奏発表する。	S - (A) - B - C - D
		(努力したこと, 進歩したこと, 次に頑張りたいこと 等) イメージしたように演奏できて嬉しかった。他のグループの演奏もそれぞれ工夫があつて良かった。同じテーマでも全く違う音楽表現になっていて興味深く感じた。	

■ 題材全体を振り返り, 自己の成長や変容, これからの学習や生活に生かしたいことなどを書こう。

楽器の音色や奏法と曲想との関わりを理解したことで, 普段耳にする音楽の聴こえ方や感じ方も変わったように思う。また, 音楽を聴いたり演奏したりするのはこれまでも好きだったが, 今回新たに音楽をつくる楽しさを知ることができた。難しい面もあったが, 音と向き合い, 一つ一つ積み重ねるようにして音楽を形づくっていく過程は面白かった。イメージを自由自在に音楽で表せるようになったらさらに楽しいだろう。そのために, 音楽の構造や作曲技法についてこれから学んでいきたい。

○「努力を要する」状況(C)と判断されそうな生徒への働きかけの例

箏の技能習得に取り組む学習活動において意欲が減退している生徒に対しては, その生徒と対話をしたり, 実際の演奏を確かめたりして, うまくできていることと難しさを感じていることを把握し, うまくできていることについては積極的に認めるとともに, 難しさを感じていることについては生徒が無理なく取り組むことができるように助言をする。

音楽を形づくっている要素の働きを様々に変化させ, 編曲をする学習活動において意欲が減退している生徒に対しては, 音楽を形づくっている要素の働きの変化と曲想の変化との関わりについて理解できている部分と難しさを感じている部分とをそれぞれ把握し, 理解できている部分やうまくできている部分については積極的に認め, 難しさを感じている部分については, 着眼点を示したり, 編曲の手順の具体例を示したりするなど, 生徒が無理なく取り組むことができるよう助言する。

演奏表現を創意工夫する学習活動において意欲が減退している生徒には, 創作の段階でどのような音楽をつくりたいと考えたのかを想起させ, そこから演奏の工夫点を見出すよう促すなど, 対話しながら工夫できそうなポイントに気付かせ, 学習の進め方などについて見通しがもてるようにする。

〈学習の記録〉を書く際に適正な自己評価ができていない生徒に対しては, 本時のねらいに沿って振り返る内容を確認させ, 活動の様子について質問したり, その時間に書いたワークシートの記述などを見直すように助言したりするなどして, ねらいに沿った振り返りができるようにする。

私たちの「さくら」 ～第二重奏曲をつくらう～

I-① 「《さくら》変奏曲」を聴き、音楽の雰囲気や表情について感じたことを記入しよう。

--

I-② 箏の音色や奏法と、音楽の雰囲気や表情との関わりについて考えたことをまとめよう。

--

II-① 箏の様々な奏法を用いて「さくらさくら」の旋律を変奏してみよう。

奏法	音楽の雰囲気や表情

II-② 例に従って「さくらさくら」の旋律に音を重ねてみよう。

音の重ね方 (例)		音楽の雰囲気や表情
(箏I) 七七八 - 七七八 -	(箏II) 五 - - - 六 - - -	
(箏I) 七七八 - 七七八 -	(箏II) 五五六 - 五五六 -	
(箏I) 七七八 - 七七八 -	(箏II) 〇七七七 八 - 七七七	
(箏I) 七七八 - 七七八 -	(箏II) 〇七七七 八 - 七七七	

III-① つくりたい音楽のイメージをグループで共有しよう。

私たちは

を音楽で表現したい。

III-② 表現したいイメージにふさわしい音楽をつくるためのアイデアをまとめよう。

--

IV 「さくらさくら」を編曲して第二重奏曲をつくらう。

(箏I)							
(箏II)							
(箏I)							
(箏II)							
(箏I)							
(箏II)							
(箏I)							
(箏II)							

V イメージを音として具現化するために、演奏するときに工夫したいことを書こう。

--

私たちの「さくら」 ～箏二重奏曲をつくろう～

【学習の記録】

	月／日	ねらい	自己評価
1		箏に関する基礎的な知識や奏法を身に付け、関心を高める。	S - A - B - C - D
		(努力したこと, 進歩したこと, 次に頑張りたいこと 等)	
2		曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する。	S - A - B - C - D
		(努力したこと, 進歩したこと, 次に頑張りたいこと 等)	
3		音楽を形づくっている要素の働きを変えることにより生み出される音楽の表情や雰囲気の変化を捉え, 創作へのイメージをもつ。	S - A - B - C - D
		(努力したこと, 進歩したこと, 次に頑張りたいこと 等)	
4		創意工夫を生かして編曲をする技能を身に付ける。	S - A - B - C - D
		(努力したこと, 進歩したこと, 次に頑張りたいこと 等)	
5		思いや意図をもち, 曲にふさわしい演奏表現を追求する。	S - A - B - C - D
		(努力したこと, 進歩したこと, 次に頑張りたいこと 等)	
6		創意工夫を生かした表現で, 自分たちがつくった二重奏曲を演奏発表する。	S - A - B - C - D
		(努力したこと, 進歩したこと, 次に頑張りたいこと 等)	

■ 題材全体を振り返り, 自己の成長や変容, これからの学習や生活に生かしたいことなどを書こう。

芸術科（音楽） 事例3（音楽Ⅰ）

キーワード 「思考・判断・表現」の評価、「主体的に学習に取り組む態度」の評価、ICTの活用

題材名

『レクイエム』から広がる西洋音楽の魅力を探ろう

内容のまとめ

「B鑑賞」(1)鑑賞 及び〔共通事項〕(1)

### 1 題材の目標

- (1) 『レクイエム』の曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解する。
- (2) 声や楽器の音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲に対する評価とその根拠、及び音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴く。
- (3) 『レクイエム』の特徴とグレゴリオ聖歌の普遍性、及び作曲家による多様な音楽表現に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養う。

### 2 本題材で扱う学習指導要領の内容

音楽Ⅰ B鑑賞 (1) 鑑賞

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くこと。

(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠

(ウ) 音楽表現の共通性や固有性

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(ア) 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり

(イ) 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり

〔共通事項〕(1)

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」、「旋律」、「テクスチュア」)

### 3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知① 『レクイエム』の曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。	思① 声や楽器の音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。	態① 『レクイエム』の特徴とグレゴリオ聖歌の普遍性、及び作曲家による多様な音楽表現に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
知② 『レクイエム』の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。	思② 声や楽器の音色、旋律、テ	

	<p>クスチュアを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。</p>	
--	---	--

#### 4 指導と評価の計画 (全4時間)

時	◆ねらい ○学習活動 ・学習活動	知・技	思	態
1	<p>◆『レクイエム』に関心を持ち、曲想やイメージと音楽を形づくっている要素との関わりについて理解する。</p> <p>○『レクイエム』について知り、モーツァルト作曲『レクイエム』の一部分を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『レクイエム』がローマ・カトリック教会の「死者のためのミサ」の式文に作曲された音楽作品であることを確認する。</li> <li>・ローマ・カトリック教会の典礼と音楽について教師の説明を聞く。</li> <li>・映画『アマデウス』からモーツァルトが『レクイエム』を作曲している場面を鑑賞する。</li> </ul> <p>○「ディエス・イレ」について、曲想やイメージと、音色や旋律、テクスチュアとの関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モーツァルト作曲『レクイエム』から「ディエス・イレ」を鑑賞し、楽曲を聴いて感じたことやイメージしたことを言葉で表し、〈ワークシートⅠ-1-(1)-①〉に記述する。</li> <li>・感じ取った曲想やイメージが、音色や旋律、テクスチュアの働きのどのような部分から生まれているかを聴き取り、〈ワークシートⅠ-1-(1)-②〉に記述する。</li> </ul> <p>○「ディエス・イレ」の式文について学習し、式文の内容と音楽表現の関係について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの式文の内容を知る。</li> <li>・ICT端末の動画配信サイトを使用して、死者のためのミサや『レクイエム』が演奏されている場面を鑑賞する。</li> <li>・式文の内容と聴き取った曲想やイメージとの関係について、改めて感じ取ったことや気付いたことを〈ワークシートⅠ-1-(3)〉に記述する。</li> <li>・ペアやグループで意見を交換し、自分の意見との共通点や相違点について整理したことを〈ワークシートⅠ-1-(4)〉に記述する。</li> </ul>			

2	<p>◆『レクイエム』の比較と「ディエス・イレ」の旋律をモチーフにしたさまざまな楽曲から、音楽表現の共通性や固有性について考える。</p>			
	<p>○同じ式文を用いた他の作曲家による「ディエス・イレ」を鑑賞し、異なる作曲家や演奏形態にある共通する音楽の特徴について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴェルディ作曲『レクイエム』から「ディエス・イレ」を鑑賞する。</li> <li>・楽曲を聴いて感じたことやイメージしたことを言葉で表し、〈ワークシートⅠ－<b>1</b>－(1)－①〉に記述する。</li> <li>・感じ取った曲想やイメージが、音色や旋律、テクスチュアの働きのどのような部分から生まれているかを聴き取り、〈ワークシートⅠ－<b>1</b>－(1)－②〉に記述する。</li> <li>・モーツァルトの楽曲と比較し、共通点や相違点を考えて〈ワークシートⅠ－<b>1</b>－(1)－③〉に記入する。</li> <li>・ペアやグループで意見を交換し、自分の意見との共通点や相違点について整理して考えをまとめ、〈ワークシートⅠ－<b>2</b>－(4)〉に記入する。</li> </ul> <p>○グレゴリオ聖歌の「ディエス・イレ」を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グレゴリオ聖歌がカトリックの典礼音楽であり西洋音楽の源となっていることを理解する。</li> <li>・前時の学習を生かしながら、気付いたことや感じ取ったことについて〈ワークシートⅡ－(1)〉に記述する。</li> </ul> <p>○グレゴリオ聖歌の旋律が引用されたさまざまな楽曲の音色や旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『レクイエム』以外にもさまざまな作品の中で死や恐怖を表す場面としてグレゴリオ聖歌の旋律が引用されていることを知る。</li> <li>・さまざまな作曲家による「ディエス・イレ」がモチーフとなっている楽曲から、ベルリオーズ作曲「幻想交響曲」第5楽章、リスト作曲「死の舞踏」、プーグ作曲「苦しみの日のための祈り」の3曲を鑑賞し、前時の学習を生かしながら、気付いたことや感じ取ったことについて〈ワークシートⅡ－(2)〉に記述する。</li> <li>・グレゴリオ聖歌がその後の西洋音楽へ及ぼした影響について考え、〈ワークシートⅡ－(3)〉に記述する。</li> <li>・音楽表現の共通性や固有性について考えたことを〈ワークシートⅡ－(4)〉に記述し、グループで意見を交換する。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">知① 〈ワークシートⅠ・Ⅱ〉 〈観察〉</p>	<p style="text-align: center;">思① 〈ワークシートⅠ・Ⅱ〉 〈観察〉</p>	<p style="text-align: center;">評価の場面Ⅰ</p>

3	<p>◆曲に対する評価とその根拠，文化的・歴史的背景，他の芸術との関わりについて理解する。</p> <p>○グループごとにICT端末を使用して，前時の3つの楽曲から1つ選び，他の芸術と関わらせながら，その楽曲の魅力についてプレゼンテーションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションをする楽曲を話し合っ決めて。</li> <li>・〈ワークシートⅠ・Ⅱ〉をもとに意見を出し合い，音色や旋律，テクスチュアの働きが生み出す雰囲気やイメージを共有し，〈ワークシートⅢ－(1)〉に記述する。</li> <li>・楽曲が持つ共通性や固有性について前時で考えたことを取り入れながら意見をまとめ，〈ワークシートⅢ－(1)〉に記述する。</li> <li>・ICT端末を活用して，選んだ作曲家の時代背景や宗教観などを調べたり，楽曲のイメージに相応しい宗教画などを調べたりして〈ワークシートⅢ－(1)〉に記述し，プレゼンテーションの工夫を述べる。</li> <li>・音楽のよさや美しさについての説明文をまとめ，楽曲の魅力が伝わるようなプレゼンテーションを完成させる。</li> </ul>			
	4	<p>◆音楽のよさや美しさを全体で共有し，楽曲のよさや美しさについて考える。</p> <p>○発表を聞き合いながら，音楽表現の共通性や固有性，曲に対する評価とその根拠について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ単位でプレゼンテーションを行い，各グループの発表を聞き合う。</li> <li>・発表を聴きながら，それぞれの楽曲における共通点や相違点，新しい発見や改めて考えた点などを〈ワークシートⅢ－(2)〉に記入する。</li> <li>・積極的に他のグループの発表を聞き，音楽のよさや美しさについての考えを深めようとしているかを確認する。</li> <li>・これまでの学習を振り返り，音楽を形づくっている要素の働きと曲想やイメージとの関わりについて理解し，音楽のよさや美しさについて考え，味わって聴く。</li> </ul>	<p>知②</p> <p>↓</p> <p>〈ワークシートⅢ〉</p> <p>〈プレゼンテーション〉</p>	<p>思②</p> <p>↓</p> <p>〈観察〉</p> <p>〈プレゼンテーション〉</p> <p>〈ワークシートⅢ〉</p>

## 5 観点別学習状況の評価例

### (1) **評価の場面Ⅰ**における〈思考・判断・表現〉①の評価例

#### ○主な学習活動

- ・『レクイエム』以外にもさまざまな作品の中で死や恐怖を表す場面としてグレゴリオ聖歌の旋律が引用されていることを知る。
- ・さまざまな作曲家による「ディエス・イレ」がモチーフとなっている楽曲から、ベルリオーズ作曲「幻想交響曲」第5楽章、リスト作曲「死の舞踏」、プーグ＝ロジェ作曲「苦しみの日のための祈り」の3曲を鑑賞し、前時の学習を生かしながら、気付いたことや感じ取ったことについて〈ワークシートⅡ－(2)〉に記述する。
- ・グレゴリオ聖歌がその後の西洋音楽へ及ぼした影響について考え、〈ワークシートⅡ－(3)〉に記述する。
- ・音楽表現の共通性や固有性について考えたことを〈ワークシートⅡ－(4)〉に記述し、グループで意見を交換する。

#### ○評価規準

声や楽器の音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。

#### ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント 〈ワークシートⅡ〉

それぞれの楽曲を聴き、楽器や声の音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについてや、音楽表現の共通性や固有性について、おおむね妥当な内容を書いているかを判断する。

#### 〈観察〉

ワークシートに記述する場面における生徒の活動の様子、発言やつぶやきなどを観察し、ワークシートの記述からは判断することが難しい場면을補完できるようにする。

下記例の生徒は、音楽の要素に触れながら、音楽表現の共通性や固有性について、おおむね妥当な内容を記述していることから「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。

#### 【ワークシートⅡ】の記述例

(4)「音楽表現の共通性や固有性」について、考えたことを書こう。

・・・ディエス・イレ」の旋律を使った音楽は、「死」や「怒り」を表すために低い音で「死」を表したり、大きく強い音で「怒り」を表したりしているという共通性があると考えた。・・・ベルリオーズの曲では、「ディエス・イレ」の旋律とは対照的な、軽く跳ねるようなリズムの旋律が使われていて、この2つが組み合わされている面白さがあると思う。

#### ○「十分満足できる」状況（A）の例

下記例の生徒は、音楽の要素に触れながら、音楽表現の共通性や多様性について、具体的に記述していることから、「十分満足できる」状況（A）と判断できる。

#### 【ワークシートⅡ】の記述例

(4)「音楽表現の共通性や固有性」について、考えたことを書こう。

・・・どの曲も「死」からくる恐怖や不安を短調で表現している。また、「ディエス・イレ」の旋律に低音楽器を使って「死」の「恐怖」を感じさせ、鋭く大きな音で「怒り」を表現している。・・・リストの曲はピアノという楽器の特性を生かした「ディエス・イレ」の旋律の変奏曲になっている。・・・ベルリオーズはオーケストラのさまざまな楽器を効果的に使い、低い音だけでなく高い音の他の楽器でもこの旋律が登場して、音の重なりが増えていき、「怒り」や「死」のイメージが全体に広がっていく感じがした。

### ○「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

知覚したことと感受したこととの関わりについて具体的な言葉に結びつけることができず、ワークシートへの記述の段階で活動が停止している場合には、前時での学習活動を振り返らせ、曲想の違いや音楽の要素の働きに気付くことができるように促す。

### （2）**評価の場面Ⅱ**における〈思考・判断・表現〉②の評価例

#### ○主な学習活動

- ・グループ単位でプレゼンテーションを行い、各グループの発表を聞き合う。
- ・発表を聴きながら、それぞれの楽曲における共通点や相違点、新しい発見や改めて考えた点などを〈ワークシートⅢ－(2)〉に記入する。
- ・積極的に他のグループの発表を聞き、音楽のよさや美しさについての考えを深めようとしているかを確認する。

#### ○評価規準

声や楽器の音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。

### ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

#### 〈ワークシートⅢ〉

楽曲の魅力についてのプレゼンテーション発表や聞き合いを通して、さまざまな楽曲の曲に対する評価とその根拠について考え、それらの楽曲に対するよさや美しさについて、おおむね妥当な内容を書いているかを判断する。

#### 〈観察〉

プレゼンテーションの作成の過程で、グループで積極的に意見を交換し、楽曲の魅力が説明できるプレゼンテーションの作成に取り組んでいる様子や、他のグループが発表している内容を聞き、ワークシートに記述する場面における生徒の活動の様子、発言やつぶやきなどを観察し、ワークシートの記述からは判断することが難しい場面を補完できるようにする。

下記例の生徒は、第2時では十分に感じ取れなかった「ディエス・イレ」のモチーフの扱いについて、おおむね妥当な内容を記述していることから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。

#### 【ワークシートⅢ】の記述例

(2)他のグループの発表を聞き、それぞれの楽曲における共通点や相違点、新しい発見や改めて考えたことなどを書こう。

・・・初めて3つの曲を聴いたときはそれぞれの曲のどの部分に「ディエス・イレ」の旋律がどこで出てくるかに集中していたが、「ディエス・イレ」の旋律が「怒り」を表すために基本的には低音で使われていることが共通点であると考えた。そしてその他に、高い音や鋭い音などの異なる音色、細かいリズムでの変奏にする部分などの工夫の違いがそれぞれにあることが分かった。

### ○「十分満足できる」状況（A）の例

下記例の生徒は、第2時では十分に感じ取れなかった「ディエス・イレ」のモチーフの扱いについて、具体的な言葉で記述している。また、「ディエス・イレ」のモチーフ以外の部分についても発展的な思考を具体的な言葉で記述していることから、「十分満足できる」状況（A）と判断できる。

#### 【ワークシートⅢ】の記述例

(2)他のグループの発表を聞き、それぞれの楽曲における共通点や相違点、新しい発見や改めて考えたことなどを書こう。

・・・リストの曲では「ディエス・イレ」の変奏がピアノでの細かく軽やかなリズムで表現されている部分に、死が思い浮かんでもそれを考えたくないという葛藤を表現していると考えた。・・・ベルリオズの曲では「ディエス・イレ」以外の旋律も変奏されていたり、カチカチとした弦楽器の特殊な奏法で奇妙な様子を表したり、音が急降下する旋律で地獄に落とされるような様子を表している部分が、より「ディエス・イレ」のもつ「怒り」や「死」への恐怖を引き立てていると考えた。・・・ピュイグ＝ロジェの曲は後半の静かで柔らかい音色に、死後の裁きを神に委ねるような、グレゴリオ聖歌の本来の祈りの様子が表れていると考えた。

### ○「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

他のグループの発表を聞いて、新たな発見や気づきについて具体的な言葉に結びつけることができず、ワークシートへの記述の段階で活動が停止している場合には、同じグループの生徒との意見交換の場を設定したり教師と対話したりする活動を通して、第2時に聴いた時と発表を聞いた時の気づきや感じ取りの変化について問うなどし、音楽の聴き方や味わい方の変化について思考するよう促す。

#### (3) **評価の場面Ⅲ**における〈主体的に学習に取り組む態度〉の評価例

##### ○主な学習活動

第1時	<ul style="list-style-type: none"><li>・『レクイエム』についての説明を聞き、「ディエス・イレ」の曲想やイメージを感じ取りながら聴く。</li><li>・感じ取った曲想やイメージが、音色や旋律、テクスチャの働きなどのような部分から生まれているかを関連付ける。</li></ul>
第2時	<ul style="list-style-type: none"><li>・他の作曲家の「ディエス・イレ」やグレゴリオ聖歌の旋律が引用されているさまざまな作品を聴き、音楽表現の共通性や固有性について考える。</li><li>・グレゴリオ聖歌がその後の音楽へ及ぼした影響と音楽表現の多様性について考える。</li></ul>
第3時	<ul style="list-style-type: none"><li>・ICT端末を使用して、選択した楽曲の魅力についてプレゼンテーションを行う。</li><li>・グループで意見を出し合い、音色や旋律、テクスチャの働きが生み出す雰囲気やイメージを共有し、共通性や固有性について考えたことを取り入れながら意見をまとめる。</li><li>・選んだ作曲家の時代背景や宗教観などを調べたり、楽曲のイメージに相応しい宗教画などを引用したりするなど工夫して、プレゼンテーションを完成させる。</li></ul>
第4時	<ul style="list-style-type: none"><li>・発表を聞き、それぞれの音楽のよさや美しさについての考えを深める。</li><li>・学習を振り返り、音楽を形づくっている要素の働きと曲想やイメージとの関わりについて理解し、音楽のよさや美しさについて考え、味わって聴く。</li></ul>

### ○評価規準

『レクイエム』の共通性や固有性、文化的・歴史的背景と他の芸術との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

## ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

### 〈観察〉

各時の学習活動において、以下のような場面での生徒の活動の様子、発言やつぶやきなどを観察する。

#### ●第1時

- ・モーツァルト作曲『レクイエム』から「ディエス・イレ」を聴く場面で、感じたことやイメージしたことを自分の言葉でワークシートに記述しようとしているか。
- ・感じ取った曲想やイメージと音楽を形づくっている要素の働きを捉える場面で、自分の言葉でワークシートに記述したり、他者の意見を聞いたりして自分の意見との共通点や相違点を見つけようとしているか。
- ・式文の内容と聴き取った曲想やイメージとの関係について考える場面で、改めて感じ取ったことや気付いたことをワークシートに記述しようとしているか。

#### ●第2時

- ・2つの「ディエス・イレ」の比較について考える場面で、共通点や相違点を捉えて自分の言葉でワークシートIに記入したり、他者の意見を聞いたりして自分の意見との共通点や相違点を見つけようとしているか。
- ・グレゴリオ聖歌の「ディエス・イレ」を鑑賞する場面で、曲想や音楽を形づくっている要素について考えたことをワークシートに記入しようとしているか。
- ・さまざまな楽曲を聴く場面で、感じ取った曲想やイメージと音楽を形づくっている要素の働きを捉え、自分の言葉でワークシートに記述しようとしているか。
- ・グレゴリオ聖歌がその後の音楽へ及ぼした影響や音楽表現の共通性や固有性、多様性について考えたことを自分の言葉でワークシートに記入しているか。

#### ●第3時

- ・グループでプレゼンテーションを作成する場面で、意見やアドバイスを伝えたり、他者の意見を聞いたりして、プレゼンテーションの方向性を見いだそうとしているか。
- ・プレゼンテーションを工夫する場面で、ICT端末を積極的に活用し、時代背景や宗教観、楽曲のイメージに相応しい宗教画などを引用するなど、プレゼンテーションの工夫をしようとしているか。
- ・プレゼンテーションを完成させる場面で、音楽のよさや美しさが伝わるような発表をするために意見を述べようとしているか。

#### ●第4時

- ・発表を聴き合う場面で、音楽のよさや美しさが伝わるような発表をしようとしているか。
- ・積極的に他のグループの発表を聞く場面で、共通点や相違点、新しい発見や改めて考えたことなどをワークシートに記述しているか。
- ・グループで意見を交換する場面で、他者の意見を聞いて自分の意見との共通点や相違点について見つけようとしているか。

### 〈ワークシートI, II, III〉

ワークシートの記述内容から、生徒が知識を得たり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて、粘り強く取り組んでいるかや、自らの学習を調整しながら学習を進めようとしているかについて評価し、観察では見取ることができなかった生徒の取組の状況を補完的に扱いながら、第4時に総括的に評価する。

下記例の生徒は、曲想やイメージ、音楽を形づくっている要素の働きを言葉にすることが難しく活動がしばしば停滞する様子が観察された。しかしながら、第1時及び第2時の「学習の振り返り」には、自分の学習状況を分析し、できていることと難しさを感じていることを整理して次時の活動に臨んでいることがうかがえる記述が見られる。それらを踏まえ、第3時のグループでプレゼンテーションを作成する場面では、他の生徒の意見やアドバイスを積極的に取り入れながら活動する様子が観察

され、第4時の発表の場面では堂々と発表する様子が観察された。第1時と第2時でのワークシートへの記述内容には不十分な面が見られたが、第4時では他のグループの発表から共通点や相違点を見つけて自分の言葉で記述している様子が観察された。第1時よりも第4時の方が楽曲のよさや美しさを味わいながら聴くことができたと言言し、学習を通して、音楽を聴き深めている様子が観察された。以上のことから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。

### 【ワークシート I の記述例】

頑張ったこと、難しかったこと、次に頑張りたいことなどを書こう。

（第1時） 「レクイエム」の「ディエス・イレ」はテレビとかで聴いたことがあったけど、曲の感じとか思ったことを書くのが難しかったので、次は思ったことなどをうまく書けるようにしたい。

（第2時） グレゴリオ聖歌を聴いた時に、怖かったけどただ怖いだけではない感じだったし、ほかの聴き比べも楽器の音色や強弱の違いなどで感じ方が変わるから、その違いをもっとよく聴き取れるようになりたい。

（第3時） いままでワークシートに書いたことを見せてもらったり意見を交換したりして、自分のときに上手く言えなかったけど言いたかったことを友人が助けてくれて、意見を言うことに自信が持てた。みんなで意見を出し合ってプレゼンを作っていくのが楽しかった。

今回の学習を振り返って頑張ったことや、これからの学習や生活に生かしたいことなどを書こう。

・・・はじめはワークシートに書くのが苦手だったけど、みんなで意見交換をすることで、感じたことや言いたいことを発言したり書いたりできるようになって、そうなる音楽を聴いたときにどんな感じがするかやこういうところがよいと分かることから音楽をより深く味わって聴けるようになった。これからもいろんな曲を聴いてよさを味わっていきたいと思う。

### ○「十分満足できる」状況（A）の例

下記例の生徒は、第1時の学習で、音色や旋律、テクスチャなどの音楽を形づくっている要素の働きと式文の内容との関係を考える場面で、さらに詳しく音楽との関係を捉えたいなど、発展的な課題を持ちながら学習している様子がワークシートから見取ることができる。ペアやグループで意見を聞き合う場面では、積極的に自分の意見を述べながら、他の生徒の提案などをよく聞いて、自己の学習を調整しながら取り組んでいることがうかがえる。プレゼンテーションを作成する場面ではそれぞれの意見を取り入れながら楽曲のよさや美しさを効果的に伝えることのできる発表の工夫を提案する様子が観察された。

以上のことから、「十分満足できる」状況（A）と判断することができる。

### 【ワークシート I の記述例】

頑張ったこと、難しかったこと、次に頑張りたいことなどを書こう。

（第1時） ディエス・イレの内容を学習した時に、歌詞の単語と音楽の関係についてもう少し深く追求したかった。映画でモーツァルトが「レクイエム」を作曲している場面を見て、「ディエス・イレ」以外の曲も気になったので、他の曲も聴いたり調べたりしたい。

（第2時） グレゴリオ聖歌の1曲が、何年経っても作曲のモチーフとして使われている影響力は絶大だなと思ったので、今日いろいろ聴いた曲の聴き取りはいつもより頑張った。みんなの考えも気になったので、次の時間でプレゼンテーションに取り組むときにはみんなの意見をよく聞いて取り組みたい。

（第3時） 音楽のよさや美しさについてみんなで意見をまとめてプレゼンを作っていくのが楽しかった。端末を使って同じタイトルの違う曲や、絵画をいろいろ検索するのを頑張った。自分

にはまだまだ知らない世界があることが分かったので、他のグループの発表も気になるから楽しみ。

今回の学習を振り返って頑張ったことや、これからの学習や生活に生かしたいことを書こう。

・・・学習を通して「音楽の共通性や多様性」ということにとっても興味が湧き、いろいろと調べるとたくさん出てくるのが楽しくていままでの授業よりも頑張った。また、音楽の要素を聴きとって感じたことと結びつける学習をすることで音楽の味わい方が自分のなかで深まった。・・・他の音楽や、美術の分野でも、1つのことからもっといろいろな世界が広がっているのではないかと考えたので、そのような視点でさまざまな芸術を見たり聴いたりしていきたいと思う。

#### ○「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

第1時及び第2時で、曲想やイメージ、音楽を形づくっている要素を感じ取る学習活動において意欲が減退している生徒に対しては、ワークシートの記述の様子を確認しながら、イメージを感じ取ることができている部分と難しさを感じている部分を把握し、感じ取ったことについて適切な記述ができていない部分については積極的に認めるとともに、難しさを感じている部分については、着眼点やキーワードを示すなど、生徒が無理なく取り組むことができるよう助言する。

第3時で、楽曲の魅力のプレゼンテーションを作成する学習活動において、なかなか意見交換が進まない場合には、楽曲のイメージなどをワークシートの記述にとらわれることなく自由に発言できるような工夫をし、学習の進め方などについて見通しがもてるようにする。

第4時で、ワークシートの「学習の振り返り」を記述する際に、適正な自己評価ができていない生徒に対しては、本時の学習のねらいに沿って、振り返る内容を確認させ、本時の活動の様子について質問したり、その時間のワークシートへの記述を見直すように助言したりするなどして、ねらいに沿った振り返りができるようにする。

●『レクイエム』を知ろう。

1 モーツァルト作曲『レクイエム』から「デイエス・イレ」を聴こう。

(1) 聴いて感じ取ったことを①欄に書こう。

	① 感じたこと	② 音色・旋律・テクスチャ	③ 共通点・相違点
モーツァルト作曲 デイエス・イレ			
( ) 作曲 デイエス・イレ			

(2) ①で書いた、聴いて感じ取ったイメージが、音楽を形づくっている要素のうち「音色」、「旋律」、「テクスチャ」のどのような働きによって生まれているかに着目して再度聴き、気づいたことや考えたことを上表の②欄に書こう。

(3) 式文 (テキスト) との関係で改めて感じ取ったことや考えたことを書こう。

(4) ペアやグループで意見を交換し、共通点や相違点について考えをまとめよう。

2 もうひとつの『レクイエム』の「デイエス・イレ」を聴こう。

(1) 聴いて感じ取ったことを上表の①欄に書こう。

(2) ①で書いた、聴いて感じ取ったイメージが、音楽を形づくっている要素のうち「音色」、「旋律」、「テクスチャ」のどのような働きによって生まれているかに着目して再度聴き、気づいたことや考えたことを上表の②欄に書こう。

(3) 2つの曲を比較して共通点や相違点を見つけ、上表の③欄に書こう。

(4) ペアやグループで意見を交換し、共通点や相違点について考えをまとめよう。

■学習の振り返り  
頑張ったこと、難しかったこと、次に頑張りたいことなどを書こう。

(第1時)	
(第2時)	
(第4時)	

今回の学習を振り返って頑張ったことや、これからの学習に生かしたいことなどを書こう。

●「ディエス・イレ」についてさまざまな音楽表現があることを知ろう。

(1) 《ワークシートⅠ》の手順で進みます。

	① 感じ取った曲想	② 音色・旋律・テクスチャ
( ) より Dies Irae		

『グレゴリオ聖歌』とは・・・

(2) それぞれの楽曲から感じ取った印象と、その要因となる音楽の様々な要素の働きとの関わりについて、気付いたことを書こう。

ベルリオーズ作曲 幻想交響曲 より		
リスト作曲 死の舞踏		
ピュイグ＝ロジェ作曲 苦しみの日のための祈り		

(3) グレゴリオ聖歌がその後の西洋音楽へ及ぼした影響について考えたことを書こう。

(4) 「音楽表現の共通性や固有性」について、考えたことを書こう。

●楽曲の魅力についてプレゼンテーションしよう。

(1) 3つの楽曲から1曲を選んで、プレゼンテーションを作成しよう。

○私たちがプレゼンテーションする楽曲・・・

○楽曲の魅力が伝わるようなプレゼンテーションの工夫をしよう。  
▽音色や旋律、テクスチャの働きが生み出す雰囲気やイメージの共有▽

▽作曲家の時代の社会情勢や宗教観、ほかの芸術との関係について調べたこと▽

▽発表に向けて解説文に入れるキーワード▽

(2) 他のグループの発表を聞き、それぞれの楽曲における共通点や相違点、新しい発見や改めて考えたことなどを書こう。

■事例④（音楽Ⅰ）

芸術科（音楽） 事例（音楽Ⅰ）④  
キーワード 「思考・判断・表現」の評価

題材名

歌舞伎の魅力を味わおう

内容のまとめり

「A表現」(1)歌唱 及び〔共通事項〕(1)／  
「B鑑賞」(1)鑑賞 及び〔共通事項〕(1)

1 題材の目標

- (1) 歌舞伎音楽の特徴と文化的・歴史的背景，他の芸術との関わりについて理解するとともに，言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解し，長唄にふさわしい発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能を身に付ける。
- (2) 声や楽器の音色，旋律を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，どのように歌うかについて表現意図をもつとともに，自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え，音楽のよさや美しさを自ら味わって聴く。
- (3) 歌舞伎の音楽や表現上の特徴に関心を持ち，主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組むとともに，日本の伝統文化に親しみ，音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 本題材で扱う学習指導要領の内容

音楽Ⅰ A表現 (1)歌唱

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(イ) 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり

ウ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な，次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア) 曲にふさわしい発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能

音楽Ⅰ B鑑賞 (1)鑑賞

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら，次の(ア)から(ウ)までについて考え，音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くこと。

(イ) 自分や社会にとっての音楽の意味や価値

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(イ) 音楽の特徴と文化的・歴史的背景，他の芸術との関わり

〔共通事項〕(1)

(本題材の学習において，生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」・「旋律」)

### 3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知①</b> 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。(歌唱)</p> <p><b>技</b> 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、長唄にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。(歌唱)</p> <p><b>知②</b> 歌舞伎音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。(鑑賞)</p>	<p><b>思①</b> 声の音色、旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。(歌唱)</p> <p><b>思②</b> 声や楽器の音色、旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。(鑑賞)</p>	<p><b>態</b> 歌舞伎の音楽や表現上の特徴に関心をもち、主体的・協働的に表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(歌唱・鑑賞)</p>

### 4 指導と評価の計画 (全3時間)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知 技	思	態
1	<p>◆歌舞伎の舞台や音楽について知り、関心を高める。</p> <p>○歌舞伎「京鹿子娘道成寺」を鑑賞する。 ・あらすじや概要を知り、ダイジェストを視聴する。</p> <p>○歌舞伎の舞台や音楽について知り、その特徴を捉える。 ・映像資料を視聴する。 ・歌舞伎の特徴について、音や音楽、美術的事項、演劇的事項、舞台の構造に整理し、〈ワークシートⅠ〉にまとめる。</p> <p>○歌舞伎における音楽の役割や効果を捉える。 ・「道行」、「クドキ」、「鈴太鼓」、「鐘入り」の場面を視聴し、各場面の情景と音楽の特徴や雰囲気との関わりを捉える。 ・音楽を消した状態で「鐘入り」の場面を視聴し、音楽の有無によって情景の伝わり方に差が生じることを捉える。 ・物語の進行における音楽の役割や効果について意見交換し、〈ワークシートⅡ〉にまとめる。</p>			↓

	<p>◆言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解し、長唄にふさわしい歌唱表現をする。</p> <p>○長唄らしさを意識して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「鈴太鼓」の長唄の一部を聴き、声の音色や言葉の発音の仕方、節回しや歌い方の特徴について気付いたことや感じ取ったことを〈ワークシートⅢ-①〉にまとめる。</li> <li>・範唱に合わせて繰り返し歌う。</li> <li>・グループで互いに聴き合い、発声や発音の仕方、身体の使い方について助言し合う。</li> </ul> <p>○長唄らしい歌唱表現を追求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「鈴太鼓」の部分の映像を視聴し、場面の情景、囃子や舞の雰囲気をつまえて、曲にふさわしい表現を工夫する。</li> <li>・どのように歌うかについてグループで話し合い、思いや意図を〈ワークシートⅢ-②〉にまとめる。</li> <li>・グループで歌い試しながら、「鈴太鼓」の長唄にふさわしい歌唱表現を追求する。</li> </ul> <p>○グループ毎に演奏発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長唄らしい表現をしているか確認しながら聴き合う。</li> </ul>	<p>知①技 〈観察（演奏発表）〉</p>	<p>評価の場面Ⅰ 思① 〈観察（歌唱）〉 〈ワークシートⅢ〉</p>	
3	<p>◆歌舞伎音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解し、自分や社会にとっての意味や価値を考えながら、そのよさや美しさを味わう。</p> <p>○歌舞伎と能を比較鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎「京鹿子娘道成寺」と能「道成寺」に共通する詞章「花の外には松ばかり～」と「乱拍子」の部分の視聴し、それぞれの特徴をつまえる。</li> <li>・歌舞伎と能の成立の歴史を知る。</li> <li>・歌舞伎音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて意見交換し、〈ワークシートⅣ〉にまとめる。</li> </ul> <p>○歌舞伎の魅力伝える批評文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習を振り返りながら歌舞伎「京鹿子娘道成寺」のダイジェストを鑑賞し、そのよさや美しさを味わう。</li> <li>・自分や社会にとっての歌舞伎の価値について考え、歌舞伎の魅力について伝える批評文を書く。</li> <li>・批評文を発表し合い、その内容について意見交換をする。</li> </ul> <p>○本題材の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の学習を振り返り、自己の成長や変容、これからの学習や生活に生かしたいことなどについて〈学習の記録〉に記入する。</li> </ul>	<p>知② 〈ワークシートⅣ〉 〈鑑賞〉 〈観察〉</p>	<p>評価の場面Ⅱ 思② 〈批評文〉 〈鑑賞〉 〈観察〉</p>	<p>態 〈歌唱・鑑賞〉 〈学習の記録〉</p>

## 5 観点別学習状況の評価の進め方

### (1) 評価の場面 Iにおける〈思考・判断・表現〉①（歌唱）の評価例

#### ○主な学習活動

- ・「鈴太鼓」の長唄の一部を聴き、声の音色や言葉の発音の仕方、節回しや歌い方の特徴について気付いたことや感じ取ったことを〈ワークシートⅢ-①〉にまとめる。
- ・「鈴太鼓」の部分の映像を視聴し、場面の情景、囃子や舞の雰囲気をつかえて、曲にふさわしい表現を工夫する。
- ・どのように歌うかについてグループで話し合い、思いや意図を〈ワークシートⅢ-②〉にまとめる。
- ・グループで歌い試しながら、「鈴太鼓」の長唄にふさわしい歌唱表現を追求する。

#### ○評価規準

声の音色、旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したものと感受したものととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。

#### ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

##### 〈ワークシートⅢ〉

声の音色や言葉の発音の仕方、節回しや歌い方の特徴について整理した上で、長唄らしい歌唱表現をするためにどのように歌うかについて自分なりの思いや意図を書いているかを判断する。

##### 〈観察〉

どのように歌うかについてグループで話し合う場面や、互いに聴き合い助言し合う場面における生徒の活動の様子、発言やつぶやきなどを観察し、ワークシートの記述からは判断することが難しい側面を補完できるようにする。

下記例の生徒は、声の音色や旋律の特徴に触れながら、どのような声や言葉の表現で歌いたいかについて自分なりの思いや意図を書いている。

以上のことから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。

##### 【ワークシートⅢ-②の記述例】

Ⅲ-② 曲にふさわしい歌唱表現をするために工夫したいことを書こう。

恋する女性のかわいらしさをイメージし、明るく軽やかに歌いたい。歌い出しや「さっさそうじゃいな」の所は音が高いが、張りのある地声が保てるよう、姿勢をよくして歌う。また、歌詞がはっきり聞こえるよう、母音を意識しながら一音一音明瞭に発音する。

#### ○「十分満足できる」状況（A）の例

下記例の生徒は、声の音色や旋律の特徴に触れながら、どのような声や言葉の表現で歌いたいかについて、自分なりの思いや意図とその理由を明確に書いている。また、どのように歌えば長唄らしさを表現できるかについて具体的に発言したり、様々な歌い方を試しながらよりよい演奏を追求したりする様子が観察された。

以上のことから、「十分満足できる」状況（A）と判断することができる。

### 【ワークシートⅢ-②の記述例】

Ⅲ-② 曲にふさわしい歌唱表現をするために工夫したいことを書こう。

正座して背筋を伸ばし、お腹からまっすぐ前に声を出すように歌う。  
言葉を美しく聞かせるため、母音をはっきり発音するとともに、言葉の切れ目や抑揚を意識する。  
産字のところは滑らかに歌い、節尻は筆を止めるような意識で音を切る。  
鈴太鼓の場面は若々しく躍動的な舞が印象的なので、三味線の音にのってリズムカルに歌いたい。

#### ○「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

長唄らしさのイメージが明確にならず、活動が停滞している場合には、〈ワークシートⅢ-①〉に書いた長唄の声の音色や歌い方の特徴を再確認させる。また、場面の情景、囃子や舞の雰囲気などを想起させ、そのことを手掛かりに、自分なりの思いや意図をもてるよう促す。

#### （2）**評価の場面Ⅱ**における〈思考・判断・表現〉②（鑑賞）の評価例

##### ○主な学習活動

- ・これまでの学習を振り返りながら歌舞伎「京鹿子娘道成寺」のダイジェストを鑑賞し、そのよさや美しさを味わう。
- ・自分や社会にとっての歌舞伎の価値について考え、歌舞伎の魅力について伝える批評文を書く。
- ・批評文を発表し合い、その内容について意見交換をする。

##### ○評価規準

声や楽器の音色、旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。

##### ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント

###### 〈批評文〉

歌舞伎音楽の特徴を踏まえ、日本の伝統芸能である歌舞伎の魅力や文化的価値について、おおむね妥当な内容を書いているかを判断する。

###### 〈観察〉

批評文を書く場面や、批評文の内容について意見交換する場面における生徒の活動の様子、発言やつぶやきなどを観察し、批評文の記述からは判断することが難しい側面を補完できるようにする。

下記例の生徒は、歌舞伎音楽の特徴について学習したことを踏まえ、日本の伝統芸能である歌舞伎の魅力や文化的価値について、おおむね妥当な内容を書いている。

以上のことから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。

#### 【批評文の記述例】

…（略）… 歌舞伎の音楽は三味線のほか、笛や太鼓、歌を伴い、情景や心情を表す役割がある。

また、ツケも重要な音の一つである。歌舞伎は総合芸術であるため、演劇も音楽も同時に楽しめ

るといふ魅力がある。歌舞伎は日本が誇るべき文化であり、ユネスコの無形文化遺産にも登録さ

れるなど、その価値は広く認められている …（略）…

### ○「十分満足できる」状況（A）の例

下記例の生徒は、歌舞伎音楽の特徴を踏まえて、日本の伝統芸能である歌舞伎の魅力や文化的価値について自分なりの考えを具体的に書いており、その内容も適切である。

以上のことから、「十分満足できる」状況（A）と判断することができる。

#### 【批評文の記述例】

…（略）… 歌舞伎の下座音楽や長唄は、登場人物の心情や情景を表す重要な役割があり、物語の
進行上なくてはならないものである。その音色は華やかな和の魅力にあふれており、役者の演技
や舞踊と一体となって観客を魅了する。江戸時代には三味線音楽は最新流行の音楽であり、派手
さを極めた舞台に人々は熱狂したことだろう。現在でも歌舞伎は観客を楽しませるために新たな
挑戦をし続けている。高い芸術性はもとより、このエンターテインメント性こそが、長い年月、人々
を魅了し続ける所以と言えるのではないだろうか …（略）…

### ○「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

歌舞伎音楽の特徴や魅力を感じ取ってはいるが、社会にとっての意味や価値に関連付けることができず、活動が停滞している生徒に対しては、歌舞伎が長い歴史の中で常に発展し続け、人々に愛され続けてきたことに目を向けさせる。また、鑑賞及び歌唱の学習を通してどのようなことを考えたり感じたりしたかについて問いかけるなどし、対話の中で考えを整理させ、記述を促す。

## 歌舞伎の魅力味わおう

I 歌舞伎を視聴し、気付いたことを記入しよう。

音や音楽	美術的事項	演劇的事項	舞台の構造

II 物語の進行における音楽の役割や効果について考えたことをまとめよう。

III-① 長唄の範唱を聴き、気付いたことや感じ取ったことを記入しよう。  
気付いたこと・感じ取ったこと

声の音色	
言葉の発音	
節回し 歌い方	

III-② 曲にふさわしい歌唱表現をするために工夫したいことを書こう。

IV 歌舞伎音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについてまとめよう。

歌舞伎の魅力伝える批評文を書こう

〈1段落目に書くこと〉

- ① 歌舞伎における音楽の役割や特徴
  - ② 鑑賞や歌唱をとおして「自分が感じたこと」とその根拠
- 〈2段落目に書くこと〉
- ③ 歌舞伎が江戸時代から現在に至るまで受け継がれ、発展し続けている理由
  - ④ 自分が考える歌舞伎の魅力

## 歌舞伎の魅力を味わおう

### 【学習の記録】

	月／日	ねらい	自己評価
1		歌舞伎の舞台や音楽について知り，関心を高める。	S - A - B - C - D
		(努力したこと，進歩したこと，次に頑張りたいこと 等)	
2		言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解し，長唄にふさわしい歌唱表現をする。	S - A - B - C - D
		(努力したこと，進歩したこと，次に頑張りたいこと 等)	
3		歌舞伎音楽の特徴と文化的・歴史的背景，他の芸術との関わりについて理解し，自分や社会にとっての意味や価値を考えながら，そのよさや美しさを味わう。	S - A - B - C - D
		(努力したこと，進歩したこと，次に頑張りたいこと 等)	

■ 題材全体を振り返り，自己の成長や変容，これからの学習や生活に生かしたいことなどを書こう。

芸術科（音楽） 事例5（音楽Ⅰ）  
 キーワード 「思考・判断・表現」の評価、ICTの活用

題材名  
 アジアの声による多様な表現を味わおう

内容のまとめり  
 「A表現」(1)歌唱 及び〔共通事項〕(1)／  
 「B鑑賞」(1)鑑賞 及び〔共通事項〕(1)

### 1 題材の目標

- (1)アジアの諸民族の音楽の特徴と文化的背景を理解するとともに、様々な表現形態による歌唱表現の特徴を理解し、表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付ける。
- (2)アジアの諸民族の音楽の声や楽器の音色、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージを持って歌唱表現を創意工夫するとともに、社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴く。
- (3)アジアの諸民族の音楽の特徴と多様な価値観や美意識に関心をもち、主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養う。

### 2 本題材で扱う学習指導要領の内容

音楽Ⅰ A表現 (1) 歌唱

- ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること。
- イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
- ウ 様々な表現形態による歌唱表現の特徴
- エ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
- オ 表現形態の特徴を生かして歌う技能

音楽Ⅰ B鑑賞 (1) 鑑賞

- ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くこと。
- イ 自分や社会にとっての音楽の意味や価値
- ウ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
- エ 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり

〔共通事項〕(1)

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」、「リズム」、「テクスチャ」)

### 3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①アジアの諸民族の音楽の特徴と文化的背景について理解している。(鑑賞)	思①音色、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌	態①アジアの諸民族の音楽の特徴と多様な価値観や美意識に関心をもち、主体的・協働的に表現と鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
知②様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解		

<p>している。(歌唱)</p> <p><b>技</b> 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要なそれぞれの曲にふさわしい表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付け、歌唱で表している。(歌唱)</p>	<p>うかについて表現意図をもっている。(歌唱)</p> <p><b>思②</b> 音色, リズム, テクスチャを知覚し, それらの働きを感受しながら, 知覚したものと感受したこととの関わりについて考えるとともに, 社会にとっての音楽の意味や価値について考え, 音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。(鑑賞)</p>	<p>(歌唱・鑑賞)</p>
--	---	----------------

#### 4 指導と評価の計画 (全4時間)

時	◆ねらい ○学習活動 ・学習活動	知・技	思	態
1	<p>◆アジアの諸民族の音楽に興味や関心をもち, それぞれの音楽形態や音色などの特徴を感じ取って聴く。</p> <p>○アジアの各地における「楽器による表現」の音楽について, さまざまな表現があることを知り, 楽器の音色やリズム, テクスチャを知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「シタール (インド)」「アルフー (中国)」「ガムラン (インドネシア)」を聴く。</li> <li>・3つの音楽を聴き, 聞き取ったことと感じ取ったことを〈ワークシート I - <b>1</b> - (1) - ①〉に記述する。</li> <li>・感じ取った曲想が, 音色やリズム, テクスチャのどのような働きや効果から生まれているかを聴き取り, 気付いたことを〈ワークシート I - <b>1</b> - (1) - ②〉に記述する。</li> </ul> <p>○それぞれの音楽が演奏されている場面や目的などとの関わりに関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの音楽がどこの国や地域の音楽かについて, 教師の説明を聞く。</li> <li>・ICT端末を使用して, これらの音楽が演奏される場面や目的などを調べ, 〈ワークシート I - <b>1</b> - (1) - ③〉に記述する。</li> <li>・ペアやグループで意見を交換し, 自分の意見との共通点や相違点について整理する。</li> </ul>			

2	<p>○アジアの各地における「声による表現」について、さまざまな表現形態による声による表現があることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT端末の動画配信サイトを使用して、アジア各地のさまざまな声による表現の音楽から、「ウポポ（日本・アイヌ）」、「アリラン（韓国・朝鮮半島）」、「ケチャ（インドネシア・バリ島）」の演奏事例を検索する。</li> </ul> <p>○3つの音楽の声の音色やリズム、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の特徴について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの音楽を聴き、聞き取ったことと感じ取ったことを〈ワークシートⅠ－<b>2</b>－(1)－①〉に記述する。</li> <li>・感じ取った曲想が、音色やリズム、テクスチャのどのような働きや効果から生まれているかを聴き取り、気付いたことを〈ワークシートⅠ－<b>2</b>－(1)－②〉に記述する。</li> <li>・ICT端末を使用して、これらの音楽が演奏される場面や目的などを調べ、〈ワークシートⅠ－<b>2</b>－(1)－③〉に記述する。</li> <li>・ペアやグループで意見を交換し、自分の意見との共通点や相違点について整理する。</li> </ul>	 <p><b>知①</b> 〔鑑賞〕 〔観察〕 〈ワークシートⅠ〉</p>		
◆様々な表現形態による歌唱表現の特徴を理解し、歌唱表現を創意工夫する。				
3	<p>○前時に学習した楽曲について、それぞれの表現形態にふさわしい声の表現に挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで「ウポポ」、「アリラン」、「ケチャ」からそれぞれ一部分を取り上げ、表現に取り組む音楽を選択する。</li> <li>・選択した音楽について、〈ワークシートⅠ〉をもとに意見を出し合い、音色やリズム、テクスチャの働きが生み出す雰囲気やイメージを共有し、〈ワークシートⅡ－<b>1</b>－(1)〉に記述する。</li> <li>・選択した音楽について、その背景となる文化的背景や風習などの視点を踏まえた解説を考え、〈ワークシートⅡ－<b>1</b>－(1)〉に記述する。</li> </ul> <p>○表したいイメージをより明確に表現するため創意工夫を重ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現形態と音色やリズム、テクスチャの働きを意識し、それぞれの表現に相応しい歌い方を試す。</li> <li>・ICT端末を使用して録音や録画をして検証し、よりふさわしい表現を工夫する。</li> </ul>			

	<p>・よりふさわしい表現になるよう工夫したことをグループで確認し、〈ワークシートⅡ－<b>1</b>－(2)〉に記述する。</p>		<p>↓</p> <p><b>思①</b> (歌唱) (観察) 〈ワークシートⅡ〉</p>	<p>↓</p> <p>評価の場面Ⅰ</p>
<p>4</p>	<p>◆創意工夫を生かした歌唱表現に必要な技能を身に付けるとともに、多様な声による表現の学習を通して、社会にとっての音楽の意味や価値について考える。</p> <p>○発表を聴き合いながら声による表現の面白さを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表したい表現形態の特徴を意識して、グループで発表をする。</li> <li>・それぞれのふさわしい表現形態の特徴を生かした表現をしているか確認しながら聴き合う。</li> <li>・聴き合って感じたことや、それぞれの音楽の文化的背景や風習などの視点を踏まえた解説を聞いて参考になったことなどを〈ワークシートⅡ－<b>2</b>－(1)〉に記述する。</li> <li>・取り組みを通して新たに聴き取れたことや感じ取れたことを〈ワークシートⅡ－<b>2</b>－(2)〉に記述する。</li> </ul> <p>○これまでの学習を振り返り、社会にとっての音楽の意味や価値について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの音楽の特徴と、演奏される場面や目的、文化的背景及び風習などの学習を振り返り、それぞれの地域にとっての音楽の意味や価値について考え、考察したことを〈ワークシートⅠ－<b>3</b>〉に記述する。</li> <li>・ペアやグループで意見を交換し、自分の意見との共通点や相違点について整理する。</li> </ul>	<p>↓</p> <p><b>知②技</b> (歌唱) (発表) (観察) 〈ワークシートⅡ〉</p>	<p>↓</p> <p><b>思②</b> (鑑賞) 〈ワークシートⅠ〉</p> <p>↓</p> <p>評価の場面Ⅱ</p>	<p>↓</p> <p><b>態</b> (歌唱・鑑賞) (観察) 〈ワークシートⅠ〉</p>

## 5 観点別学習状況の評価例

### (1) 評価の場面Ⅰにおける〈思考・判断・表現〉①(歌唱)の評価例

#### ○主な学習活動

- ・グループで「ウポポ」、「アリラン」、「ケチャ」からそれぞれ一部分を取り上げ、表現に取り組む音楽を選択する。
- ・選択した音楽について、〈ワークシートⅠ〉をもとに意見を出し合い、音色やリズム、テクスチャの働きが生み出す雰囲気やイメージを共有し、〈ワークシートⅡ－**1**－(1)〉に記述する。

- ・選択した音楽について、その背景となる文化的背景や風習などの視点を踏まえた解説を考え、〈ワークシートⅡ－**1**－(1)〉に記述する。
- ・表現形態と音色やリズム、テクスチュアの働きを意識し、それぞれの表現に相応しい歌い方を試す。
- ・ICT端末を使用して録音や録画をして検証し、よりふさわしい表現を工夫する。
- ・よりふさわしい表現になるよう工夫したことをグループで確認し、〈ワークシートⅡ－**1**－(2)〉に記述する。

### ○評価規準

表現形態と音色、リズム、テクスチュアを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。(歌唱)

### ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント 〈ワークシートⅡ〉

それぞれの音楽の特徴について、知覚したことと感受したことを関わらせながら整理した上で、表現形態の特徴を生かした歌唱表現の創意工夫について、おおむね妥当な内容を書いているかを判断する。

#### 〈観察〉

ICT端末を使用して録音や録画をして検証し、よりふさわしい表現を工夫する場面や、グループで交換した意見やアドバイスを踏まえながら発表に向けての演奏を完成させる場面における生徒の活動の様子、発言やつぶやきなどを観察し、ワークシートの記述からは判断することが難しい場면을補完できるようにする。

下記例の生徒は、リズムやテクスチュアの特徴と表したいイメージと関わらせて理解し、表現形態による歌唱表現の特徴と工夫について、おおむね妥当な内容を記述していることから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。

#### 【ワークシートⅡ】の記述例

**1**－(2) 私たちが挑戦するケチャ（インドネシア・バリ島）の表現をするために

・・・さまざまなリズムが組み合わされた集合体で、1つの音楽となっているので、グループ全体でのまとまりや一体感が感じられるように、基準になるゴンプルのスイリリリとポンポンのパートを聴きながら、どのパートも同じ大きさと聴こえるように声の出し方を全パートで統一する。

### ○「十分満足できる」状況（A）の例

下記例の生徒は、輪唱という表現形態の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解し、表現の工夫について具体的に記述している。また、記述したこと以外にも、ICT端末を使用して様々な演奏例を検索し、よりふさわしい表現を工夫する様子が観察されたことから「十分満足できる」状況（A）と判断することができる。

#### 【ワークシートⅡ】の記述例

**1**－(2) 私たちが挑戦するウポポ（日本・アイヌ）の表現をするために

・・・輪唱という形態の面白さや楽しさを表現したいので、先に歌うAの人の音色が重要で、後に続くメンバーも音色をしっかりと揃える。即興性がある別々の歌に繋げる特徴もあることを知ったので、Aをやる人が別の歌になったらBの人がすぐ後を追えるようにAの人をよく聴く

ようにする。・・・地声と裏声の切り替えが特徴的なのにICT端末に録音したものを聞いたら思ったより差がついていなかったの、自分たちが思っている以上に差をつけるが、わざとらしくならないように気をつける。

### ○「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

表したいイメージはもっているが、それを歌唱で表現するにはどうしたら良いか見通しがもてずに活動が停滞している場合には、第2時に学習した、感じ取った曲想が、音色やリズム、テクスチャのどのような働きや効果から生まれているかを振り返り、その表現形態を生かしたふさわしい表現方法について具体的に例示するなどして見通しをもたせる。

## （2）**評価の場面Ⅱ**における〈思考・判断・表現〉②（鑑賞）の評価例

### ○主な学習活動

- ・それぞれの音楽の特徴と、演奏される場面や目的、文化的背景及び風習などの学習を振り返り、それぞれの地域にとっての音楽の意味や価値について考え、考察したことを〈ワークシートⅠ-3〉に記述する。

### ○評価規準

音色、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。（鑑賞）

### ○評価方法及び「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント 〈ワークシートⅠ〉

さまざまな声による表現の工夫を通して考えたことや感じたことを踏まえ、音楽の特徴と関連付けながら、アジアの諸民族の社会にとっての音楽の意味や価値について、おおむね妥当な内容を書いているかを判断する。

#### 〈観察〉

ワークシートに記述する場面における生徒の活動の様子、発言やつぶやきなどを観察し、ワークシートの記述からは判断することが難しい場面を補完できるようにする。

下記例の生徒は、歌唱表現の特徴とその地域の人々の生活を関連づけ、その地域の人々の音楽の楽しみ方について考えることを通して、社会にとっての意味や価値を見出していることが記述からうかがえることから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断することができる。

#### 【ワークシートⅠ】の記述例

- 3 「アジアの多様な音楽」の学習を振り返り、「社会にとっての音楽の意味や価値」について、自分の考えを書こう。

・・・自分たちも輪唱して楽しく、グループの結束ができたので、みんなで歌うことはその人たちのコミュニケーションになっていると思った。・・・その地域のみんで演奏する音楽はその地域の人々のコミュニケーションツールのひとつという点から、人々が生活する上でコミュニケーションのために必要なものだと考えた。

### ○「十分満足できる」状況（A）の例

下記例の生徒は、表現形態の特徴とその地域の人々の風習や宗教観と関連づけ、その地域の人々の音楽の楽しみ方について考えることを通して、社会にとっての意味や価値を見出し、自国の音楽や文化についての気付きを伴いながら考察していることが記述からうかがえることから、「十分満足でき

る」状況（A）と判断することができる。

### 【ワークシートⅠ】の記述例

3 「アジアの多様な音楽」の学習を振り返り、「社会にとっての音楽の意味や価値」について、自分の考えを書こう。

・・・みんなで歌うことで仲間意識が高まるということが体験を通して分かったので、これらの音楽には地域の人々の連帯感を高めるという役割があると思った。・・・さまざまな地域にさまざまな音楽が存在しているのは、その地域の文化でもあることなので、多様な価値観を尊重したい。・・・例えば日本でもお祭りでの音楽や神楽などがあるので、そのような音楽や芸能と同じではないかと思うので、音楽は社会や人々の生活にとって欠かせないものであると考えた。

### ○「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけの例

社会にとっての音楽の意味や価値について考えたり記述したりすることに困難を感じて活動が停滞している生徒に対しては、鑑賞及び歌唱の学習を通してどのようなことを考えたり感じたりしたかについて、教師との対話を通して振り返らせる。また、実際に歌唱表現の面白さを体験したことによって生じた音楽の聴き方や味わい方の変化と、音楽が演奏される場面や地域の学習を関連づけて思考するよう促す。

1 「楽器による表現」を聴こう。

(1) 聴いて感じ取ったことを①欄に書こう。

音楽 (国・地域)	① 感じたこと	② 音色・リズム・テクスチャ	③ 演奏される場面
シタール (インド)			
アルファー (中国)			
ガムラン (インドネシア)			

(2) ①で書いた、聴いて感じ取ったイメージが、音楽を形づくっている要素のうち「音色」、「リズム」、「テクスチャ」のどのような働きによって生まれているかに着目して再度聴き、気づいたことや考えたことを上表の②欄に書こう。

(3) ICT端末を使って、これらの音楽が演奏される場面や目的などを調べ、上表の③欄に書こう。

(4) ペアやグループで意見を交換しよう。

2 「声による表現」を聴こう。

(1) 聴いて感じ取ったことを①欄に書こう。※前時の活動を踏まえて、ICT端末を使い、各自で進めてみよう。

音楽 (国・地域)	① 感じたこと	② 音色・リズム・テクスチャ	③ 演奏される場面や目的
ウポポ ( )			
アリラン ( )			
ケチャ ( )			

(2) ①で書いた、聴いて感じ取ったイメージが、音楽を形づくっている要素のうち「音色」、「リズム」、「テクスチャ」のどのような働きによって生まれているかに着目して再度聴き、気づいたことや考えたことを上表の②欄に書こう。

(3) これらの音楽が演奏される場面や目的などを調べ、上表の③欄に書こう。

(4) ペアやグループで意見を交換しよう。

3 「アジアの多様な表現」の学習を振り返り、「社会にとつての音楽の意味や価値」について、自分の考えを書こう。

■ 学習の振り返り

頑張ったこと、進歩したこと、難しかったこと、次に頑張りたいことなどを書こう。

1 時間目	
2 時間目	
3 時間目	

頑張ったこと、進歩したこと、これからの学習や生活に生かしたことなどを書こう。

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1 挑戦する音楽を選んで、ふさわしい表現を工夫しよう。

2 グループで発表をしよう。

(1) 私たちが挑戦する音楽・・・ ( ) について

(1) 音楽の特徴の面白さを感じたり、各自・各グループの工夫点を見つたりしながら聴こう。

▽表現の形態と音色・リズム・テクスチャが生み出すイメージの共有▽

▽音楽の文化的背景や風習などについて調べたこと▽

▽発表に向けて工夫したいこと、みんなのアイデア▽

(2) 発表に向けた取り組みを通して新たに聴き取れたことや感じたことを書こう。

▽録音・録画をしてみて感じたこと、気づいたこと、更に工夫したいこと▽

(2) 表現形態を生かした音楽表現の工夫を考えよう。

私たちが挑戦する ( ) の表現をするために

【芸術（音楽）部会作成委員】

鎌田 幹子 宮城県教育庁高校教育課指導主事

泉 洋祐 宮城県泉館山高等学校教諭

谷口 貴子 宮城県宮城野高等学校教諭

丹野 幸枝 宮城県利府高等学校教諭